
敦賀発電所2号炉

ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答
令和2年9月24日提出の資料からの修正箇所

令和2年10月5日

日本原子力発電株式会社

令和2年9月24日提出の資料からの誤記修正(1/2)

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
1	本編	22	分析2-2	評価結果を	評価結果で	4,5
2	補足説明資料1	1-1-28	148	枠上部が消えている	枠の修正	6,7
3	補足説明資料1	1-1-29	156	枠上部が消えている	枠の修正	8,9
4	補足説明資料1	1-2-6	26	枠上部が消えている	枠の修正	10,11
5	補足説明資料1	1-2-20	108	枠上部が消えている	枠の修正	12,13
6	補足説明資料1	1-3-7	31	枠上部が消えている	枠の修正	14,15
7	補足説明資料1	1-5-4	15	不要な枠がついている	枠の削除	16,17
8	補足説明資料1	1-5-15	85	枠上部が消えている	枠の修正	18,19
9	補足説明資料1	1-6-5	10	亜円礫主体	亜角礫～亜円礫主体	20,21
10	補足説明資料1	1-6-5	10	亜鉛	亜円	20,21
11	補足説明資料1	1-6-17	64	44.24～44.53:	44.24～44.53m:	22,23
12	補足説明資料1	1-6-18	73	45.36～45.39:	45.36～45.39m:	24,25
13	補足説明資料1	1-6-19	76	46.12～46.17:	46.12～46.17m:	26,27
14	補足説明資料1	1-6-31	137	伴わない	伴わない	28,29
15	補足説明資料1	1-6-32	144	割れ目1～2cm間隔	割れ目は1～2cm間隔	30,31
16	補足説明資料1	1-6-33	151	伴わない	伴わない	32,33
17	補足説明資料1	1-6-36	164	伴わない	伴わない	34,35
18	補足説明資料1	1-6-37	173	伴わない	伴わない	36,37
19	補足説明資料1	1-6-39	189	はさまれない	はさまない	38,39
20	補足説明資料1	1-6-40	194	挟在物	挟雑物	40,41
21	補足説明資料1	1-6-43	211	岩片間には	岩片間は	42,43
22	補足説明資料1	1-6-43	212	密着度の	密着度が	42,43
23	補足説明資料1	1-7-8	6	割れ目がやゝ少なく	割れ目やゝ少なく	44,45
24	補足説明資料1	1-7-32	96	上下位よりもさらに	上下位よりも更に	46,47
25	補足説明資料1	1-7-34	107	白濁化	白濁化	48,49

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
26	補足説明資料1	1-7-38	123	動脈	同脈	50,51
27	補足説明資料1	1-7-38	123	淡緑色シルトから細砂脈はさむ。	淡緑色シルト～細砂脈はさむ。	50,51
28	補足説明資料1	1-7-49	171	岩片中には主せん断面と同方向	岩片中には主せん断面と同方向	52,53
29	補足説明資料1	1-8-3	1	埋戻土	:埋戻土	54,55
30	補足説明資料1	1-8-3	2	3.5m	3.50m	54,55
31	補足説明資料1	1-8-3	2	盛土	:盛土	54,55
32	補足説明資料1	1-8-3	2	砂	:砂	54,55
33	補足説明資料1	1-8-4	3	砂礫	:砂礫	56,57
34	補足説明資料1	1-8-4	3	砂	:砂	56,57
35	補足説明資料1	1-8-4	3	砂礫	:砂礫	56,57
36	補足説明資料1	1-8-5	4	砂	:砂	58,59
37	補足説明資料1	1-8-5	4	10.05m	10.05	58,59
38	補足説明資料1	1-8-7	9	幅1～2m/mm	幅1～2m/m	60,61
39	補足説明資料1	1-8-8	13	割れ目ぞい5～15m/m	割れ目ぞい幅5～15m/m	62,63
40	補足説明資料1	1-8-11	23	23.71～24.53m	23.71～24.53	64,65
41	補足説明資料1	1-8-12	28	破碎帯	:破碎帯	66,67
42	補足説明資料1	1-8-12	30	砂状の基質を	砂状の基質と	66,67
43	補足説明資料1	1-8-12	31	破碎帯	:破碎帯	66,67
44	補足説明資料1	1-8-13	34	破碎帯	:破碎帯	68,69
45	補足説明資料1	1-8-17	52	すでに	既に	70,71
46	補足説明資料1	1-8-17	53	～42.40m 上下端	～42.40mは上下端	70,71
47	補足説明資料1	1-8-18	55	破碎帯	:破碎帯	72,73
48	補足説明資料1	1-8-19	58	コア観察カードの1行目が青枠に入っていない	枠の修正	74,75
49	補足説明資料1	1-8-29	104	破碎帯	:破碎帯	76,77
50	補足説明資料1	1-8-30	111	～83.74m 硬さ「C」	～83.74mには硬さ「C」	78,79

令和2年9月24日提出の資料からの誤記修正(2/2)

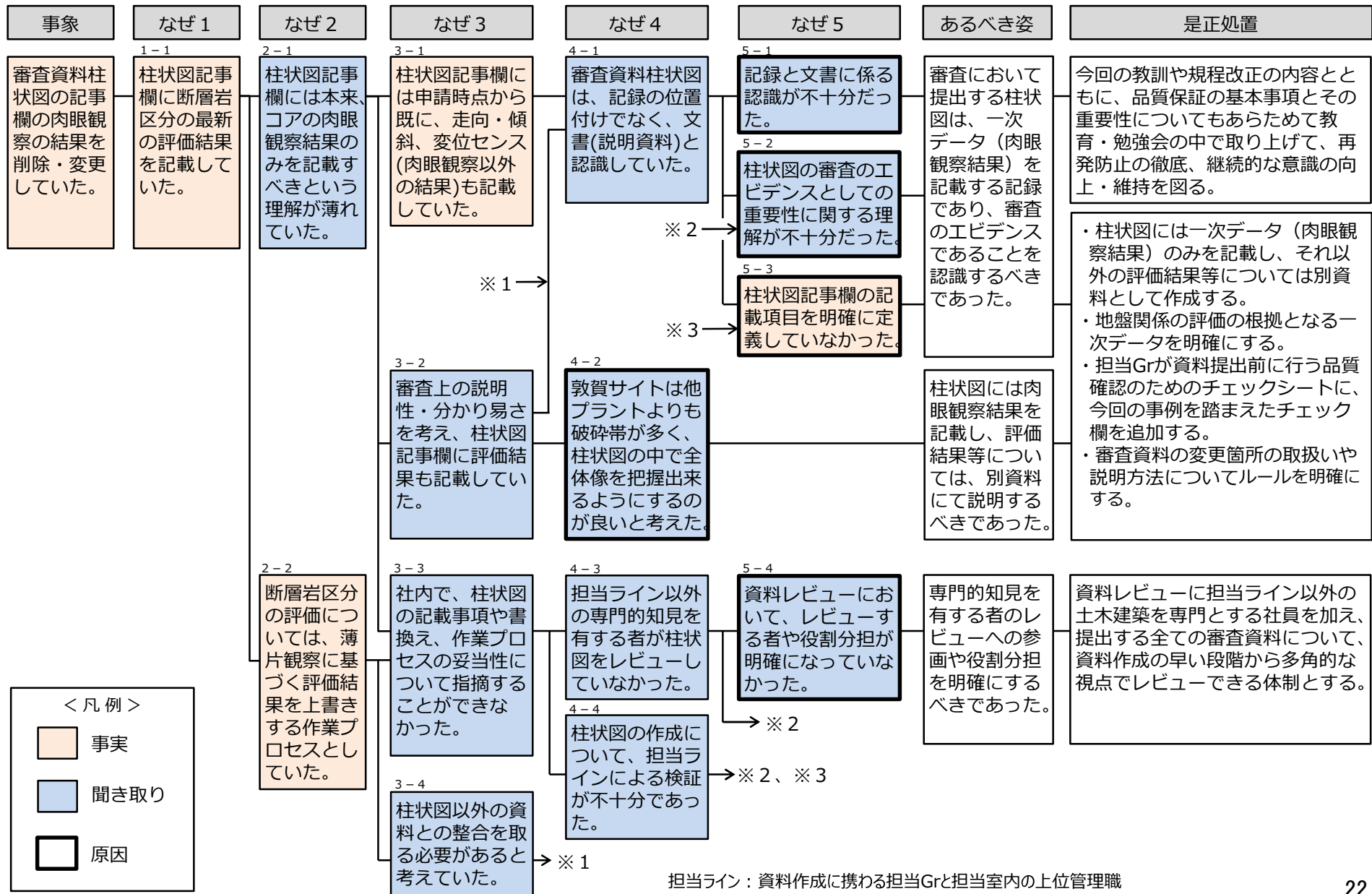
No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
51	補足説明資料1	1-8-30	111	岩片間の砂状～	:岩片間の砂状～	78,79
52	補足説明資料1	1-8-32	120	破碎帯	:破碎帯	80,81
53	補足説明資料1	1-8-33	125	厚さ	厚	82,83
54	補足説明資料1	1-8-33	127	94.25m～	94.25～	82,83
55	補足説明資料1	1-8-34	129	60° 割れ目に厚さ1m/m	60° 割れ目に厚1m/m	84,85
56	補足説明資料1	1-8-34	133	脈状から	脈状～	84,85
57	補足説明資料1	1-8-35	140	マンガン鉱染の黒っぽい	マンガン鉱染のため黒っぽい	86,87
58	補足説明資料1	1-8-37	143	103.24m, 203.48m	103.24m, 103.48m	88,89
59	補足説明資料1	1-8-42	160	全体も軟化	全体が軟化	90,91
60	補足説明資料1	1-8-43	169	60° 割れ目厚さ2m/m	60° 割れ目厚2m/m	92,93
61	補足説明資料1	1-8-45	175	厚さ1～4m/mではさむ。	厚さ1～4m/mはさむ。	94,95
62	補足説明資料1	1-8-45	177	破碎帯(主せん断面)	:破碎帯(主せん断面)	94,95
63	補足説明資料1	1-8-47	186	厚さ1～2m/mm	厚さ1～2m/m	96,97
64	補足説明資料1	1-8-49	196	析出	晶出	98,99
65	補足説明資料1	1-8-54	220	80～90° mゆ着割れ目	80～90° のゆ着割れ目	100,101
66	補足説明資料1	1-8-59	235	良く密着	よく密着	102,103
67	補足説明資料1	1-9-3	1	φ10～100mmの角礫から亜角礫が多い	φ10～100mmの角礫～亜角礫が多い	104,105
68	補足説明資料1	1-9-4	2	7.45m～7.70m	7.45～7.70m	106,107
69	補足説明資料1	1-9-10	16	20.02m付近 付近きわめて小規模～	20.02m付近 きわめて小規模～	108,109
70	補足説明資料1	1-9-20	81	60° 幅20mmで	60° 幅20mm～30mmで	110,111
71	補足説明資料1	1-9-23	100	86.96～88.03m	86.96m～88.03	112,113
72	補足説明資料1	1-9-28	129	113.43mの割れ目沿いに劣化が沿いに劣化が見られ～	113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ～	114,115
73	補足説明資料1	1-9-31	145	127.00～127.83m	127.00～127.83	116,117
74	補足説明資料1	1-10-6	13	表石	長石	118,119
75	補足説明資料1	1-10-7	20	割れ目沿い及び	割れ目沿いおよび	120,121

No.	資料番号	修正頁	修正内容			頁
			修正箇所	修正前 (令和2年9月24日)	修正後	
76	補足説明資料1	1-10-8	23	高角度厚割れ目	高角度割れ目	122,123
77	補足説明資料1	1-10-11	38	砂粒化している	砂状化している	124,125
78	補足説明資料1	1-10-12	39	破碎帯	:破碎帯	126,127
79	補足説明資料1	1-10-12	40	社交する	斜交する	126,127
80	補足説明資料1	1-10-12	43	割れ方向には	割れ目面には	126,127
81	補足説明資料1	1-10-13	44	破碎帯	:破碎帯	128,129
82	補足説明資料1	1-10-13	46	破碎帯	:破碎帯	128,129
83	補足説明資料1	1-10-14	51	∠60°	∠64°	130,131
84	補足説明資料1	1-10-15	52	挟む。	挟在。	132,133
85	補足説明資料1	1-10-16	56	厚さ7～0mm	厚さ7～10mm	134,135
86	補足説明資料1	1-10-17	60	割れ目間に	割れ目面に	136,137
87	補足説明資料1	1-10-17	60	10YR9/6	10YR4/6	136,137
88	補足説明資料1	1-10-19	64	破碎帯	:破碎帯	138,139
89	補足説明資料1	1-10-19	67	46.32m	46.33m	138,139

■ 不適合管理の概要：不適合 1「柱状図の肉眼観察結果を削除・変更していた」について

修正前

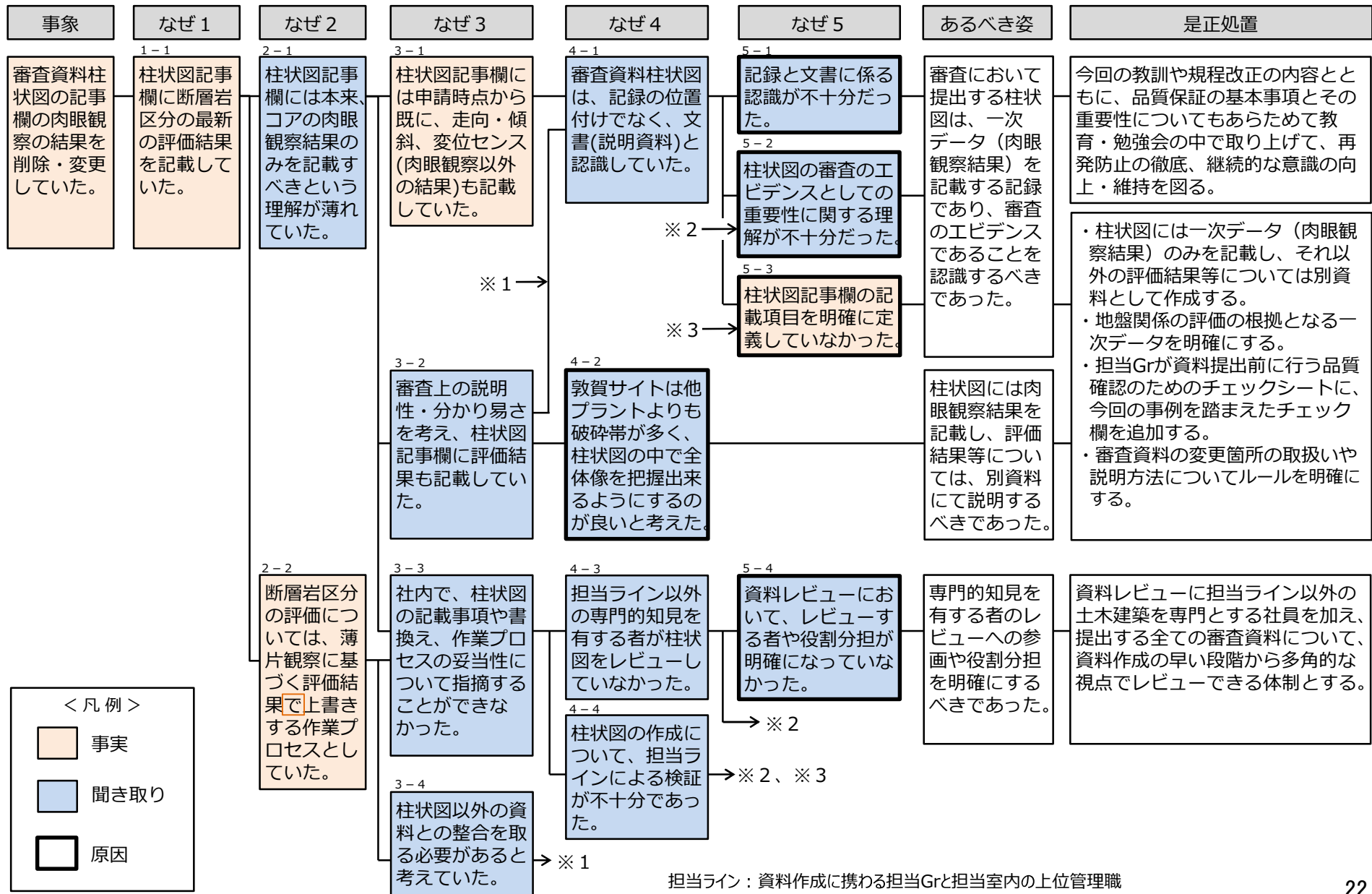
○ 追加の原因分析、是正処置



■ 不適合管理の概要：不適合 1「柱状図の肉眼観察結果を削除・変更していた」について

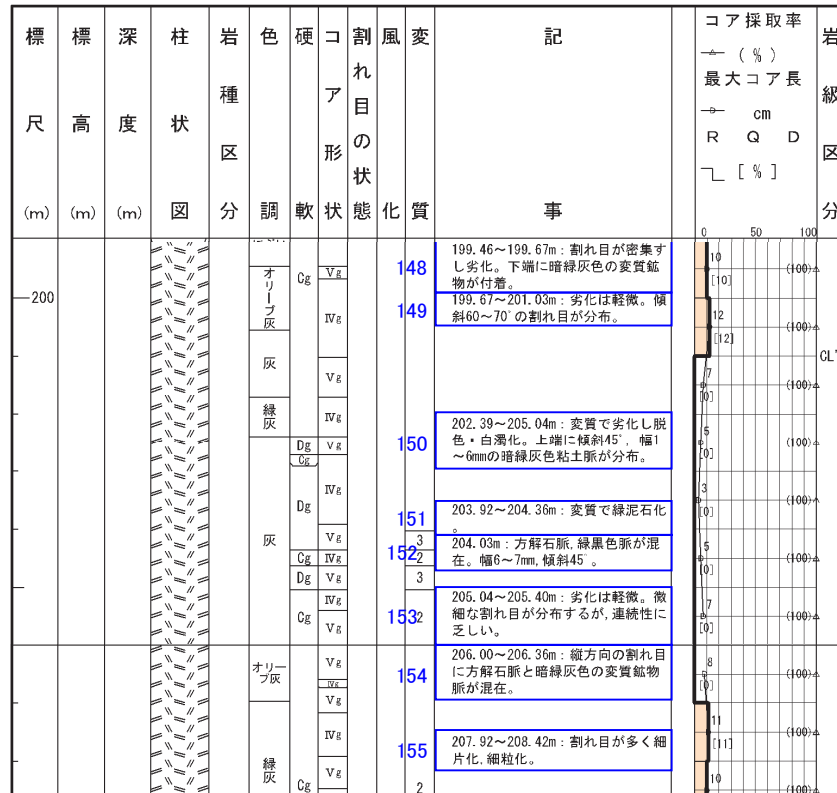
修正後

○ 追加の原因分析、是正処置



報告書作成用柱状図
(H26年9月)

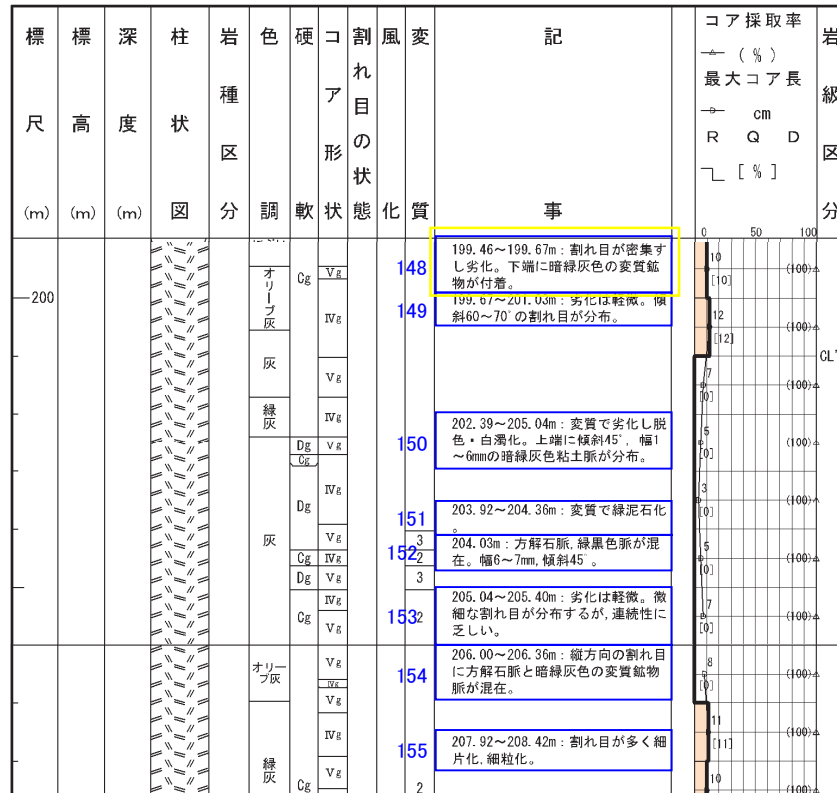
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

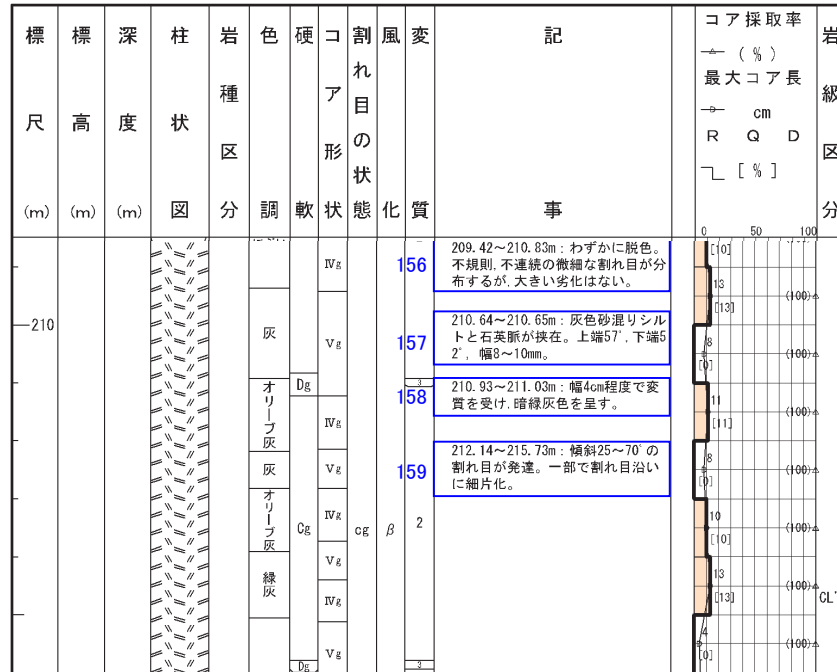
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

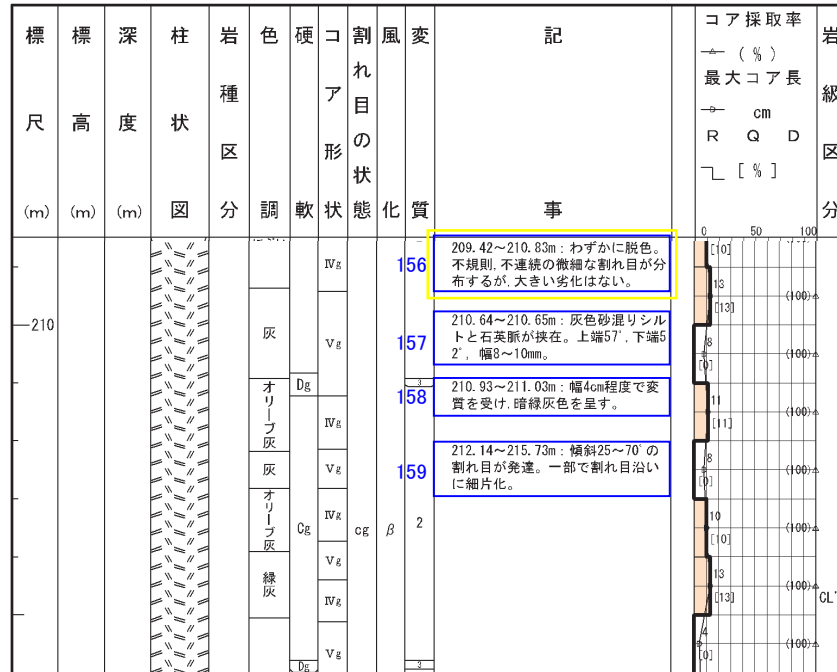
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混じりシルトを挟むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉍物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混じりシルトを挟むが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉍物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25		礫混りシルト						26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100	(100)	
	-16.54	27.94		シルト質砂	暗緑					27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100	(100)	
	-17.49	29.29		礫質砂	黒褐色					28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100	(100)	
30	-18.17	30.25		有機質砂	灰					29 30.25~31.04m: 砂質土主体(Ga1層) 30.25~31.04m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100	(100)	
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰					30 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100	(100)	
	-19.41	32.00		砂	灰白					31 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。	100	(100)	
	-20.79	33.95		礫質砂	灰					32 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100	(100)	
	-21.94	35.58		明礫						33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100	(100)	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25		シルト質砂	灰		100					26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		シルト質砂	灰		100					27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
30	-17.49	29.29		礫質砂	黒褐色		100					28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
	-18.17	30.25		有機質砂	灰		100					30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・細粒砂~中粒砂が主体である。
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰白		100					31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00		砂	灰		100					32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95		礫質砂	明褐色		100					33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58		砂礫	明褐色		100					35.58~42.82m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。 ^{※2}

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

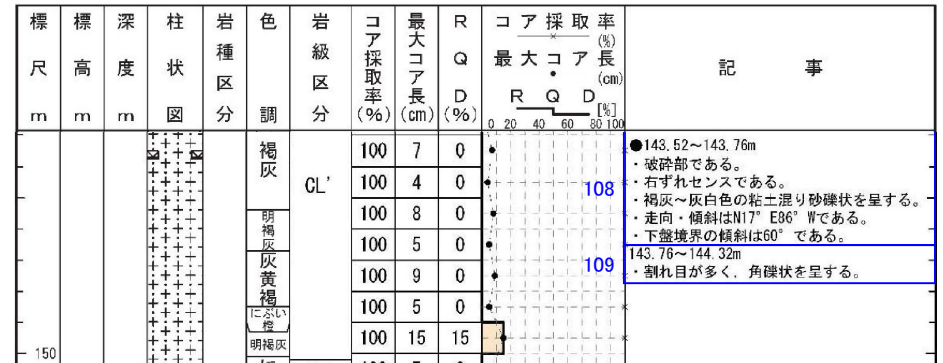
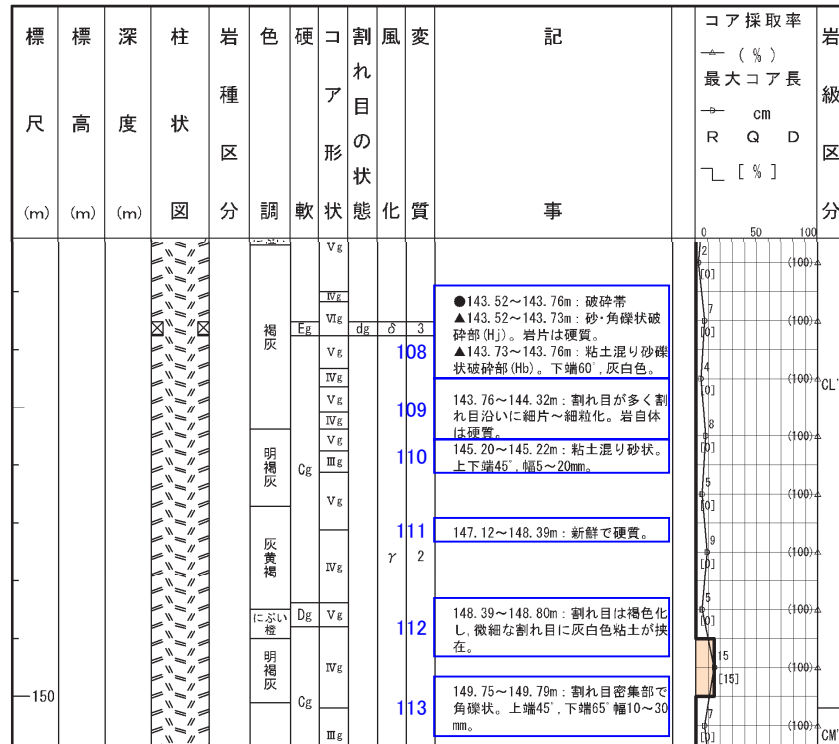
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25		礫混り砂質シルト						26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100	(100)	
	-16.54	27.94		シルト質砂	暗緑					27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100	(100)	
	-17.49	29.29		礫質砂						28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100	(100)	
30	-18.17	30.25		有機質砂	黒褐					29 30.25~31.04m: 砂質土主体(Ga11層) 30.25~31.04m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100	(100)	
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰					30 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100	(100)	
	-19.41	32.00		砂	灰白					31 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。	100	(100)	
	-20.79	33.95		礫質砂	灰					32 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100	(100)	
	-21.94	35.58		明礫						33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100	(100)	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25		シルト質砂	灰		100					26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		礫・シルト質砂			100					27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
30	-17.49	29.29		礫質砂	黒褐		100					28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
	-18.17	30.25		有機質砂	灰		100					30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・細粒砂~中粒砂が主体である。
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰白		100					31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00		砂	灰		100					32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95		礫質砂	明褐		100					33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58		砂礫	明褐 に多い黄褐色 灰オリブ		100					35.58~42.82m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。 ^{※2}

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

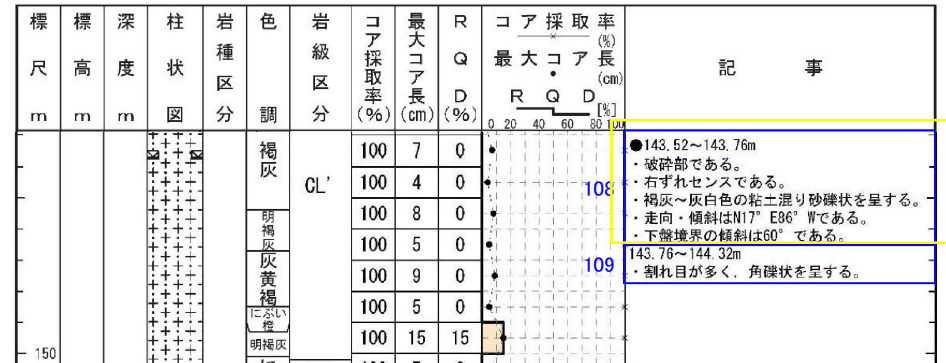
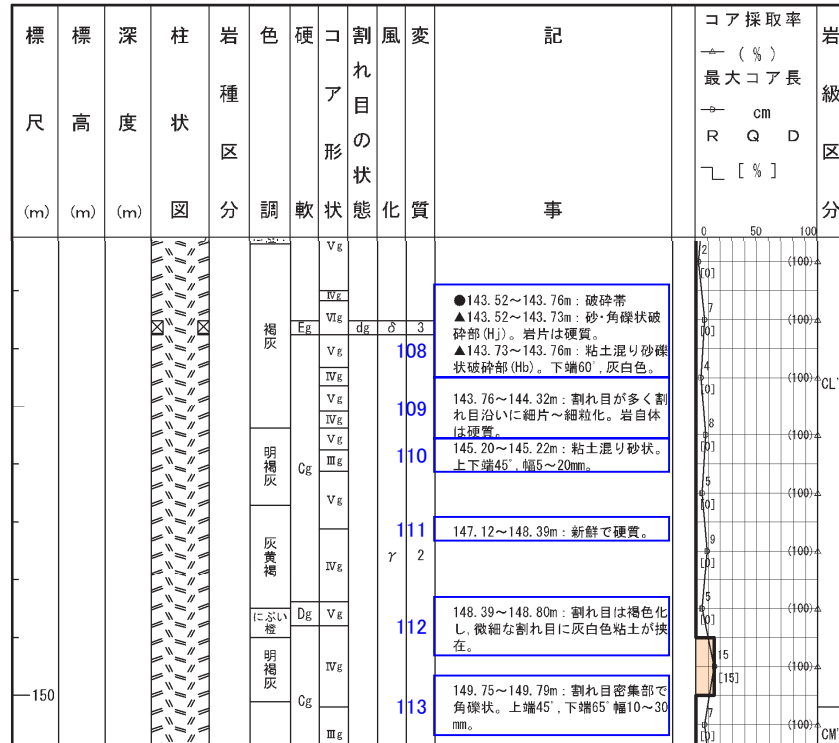
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状) ・“色調”欄に基づき褐灰と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。
109	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	・粘土混じり砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
112	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
113	・角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混じり砂礫状→粘土混じり砂礫状) “色調”欄に基づき褐灰と記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	<ul style="list-style-type: none"> 粘土混じり砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分
											25.78~38.07m: 玉石混り砂礫主体 (Gs g1層)		
				玉石混り砂礫	灰黄						25.78~29.53m: 玉石混り砂礫 径10~100cm程度のアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂。		
											26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm、最大径40mmの亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂。		
											29.53~30.29m: シルト混り砂 細~中粒砂が主。部分的に径2~5mの細礫が混る。		
	-13.78	29.53		シルト混り砂	にぶい黄橙								
	-14.32	30.29											

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事
				砂礫	灰黄		100						25.00m~25.78m ・砂礫である。
				玉石混り砂礫	灰黄		100					32, 33	25.00~29.53m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
				シルト混り砂	にぶい黄橙		100					34	29.53~30.29m ・シルト混り砂である。
				玉石混り砂礫	明黄褐		100						30.29~38.07m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
				スライム	にぶい黄橙		78						
				玉石混り砂礫	明黄褐		100						
							72						
							100						
							100						35.72~36.70m ・花崗斑岩の礫である。

記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため、玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32, 33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m ^{*1} ・径の単位cm→mm ^{*3}
34	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

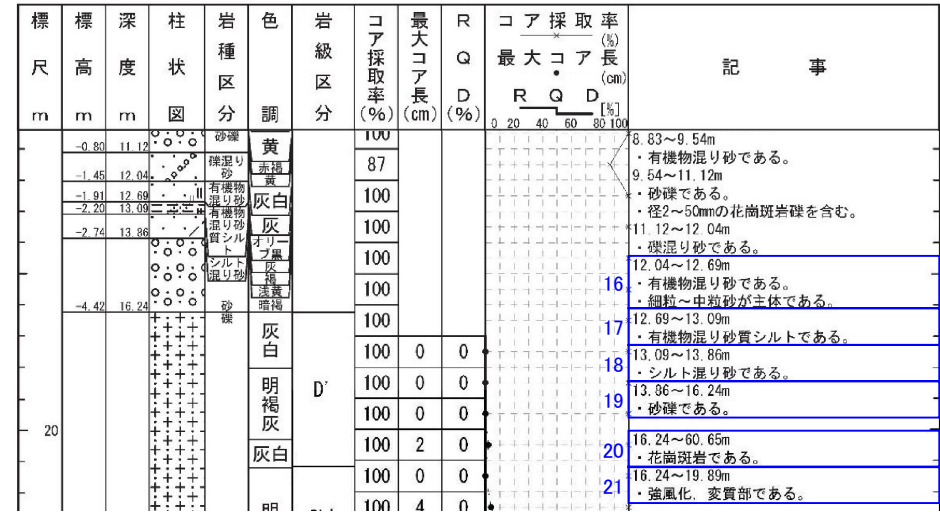
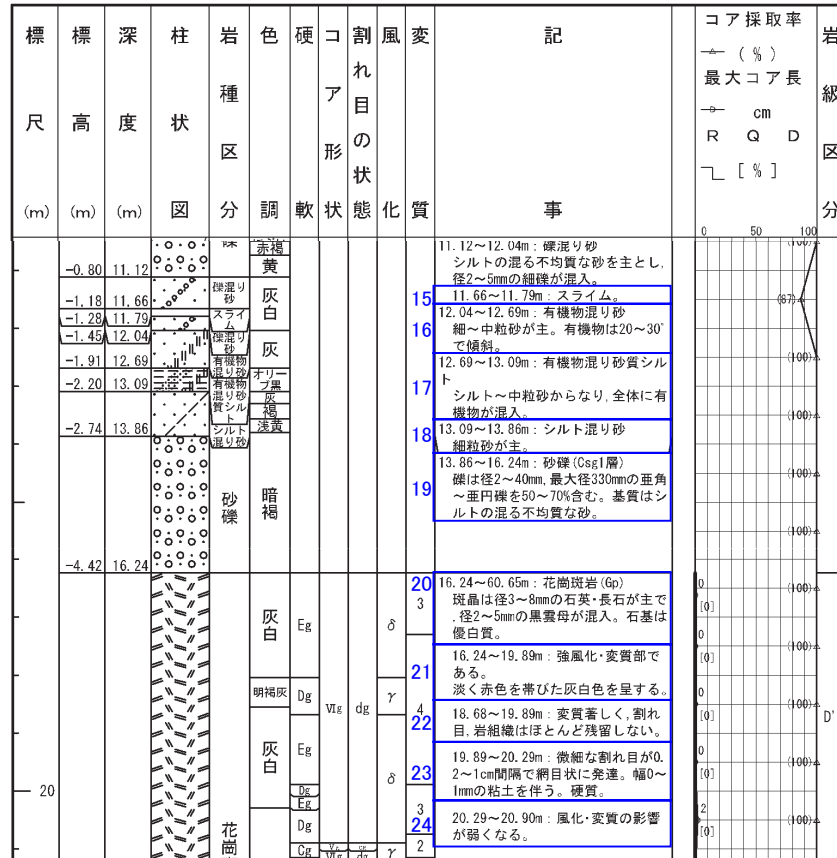
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分
											25.78~38.07m: 玉石混り砂礫主体 (Gs g1層)		
											25.78~29.53m: 玉石混り砂礫 径10~100cm程度のアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂。		
											26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm、最大径40mmの亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂。		
											29.53~30.29m: シルト混り砂 細~中粒砂が主。部分的に径2~5mの細礫が混る。		
	-13.78	29.53		玉石混り砂礫	灰黄								
	-14.32	30.29		シルト混り砂	にぶい黄橙								

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D └ [%]	記事
							100						25.00m~25.78m ・砂礫である。
							100					32, 33	25.00~29.53m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
							100						
							100						
							100						
							100					34	29.53~30.29m ・シルト混り砂である。
							100						30.29~38.07m ・玉石混り砂礫である。 ・径10~100mmのアブライト、花崗斑岩の亜角~亜円礫を含む。
							100						
							78						
							72						
							100						35.72~36.70m ・花崗斑岩の礫である。
							100						

記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
31	・区間毎の性状を個別に記載しているため、玉石混り砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
32, 33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、礫種、円磨度を記載。 ・上端深度25.78m→25.00m ^{*1} ・径の単位cm→mm ^{*3}
34	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

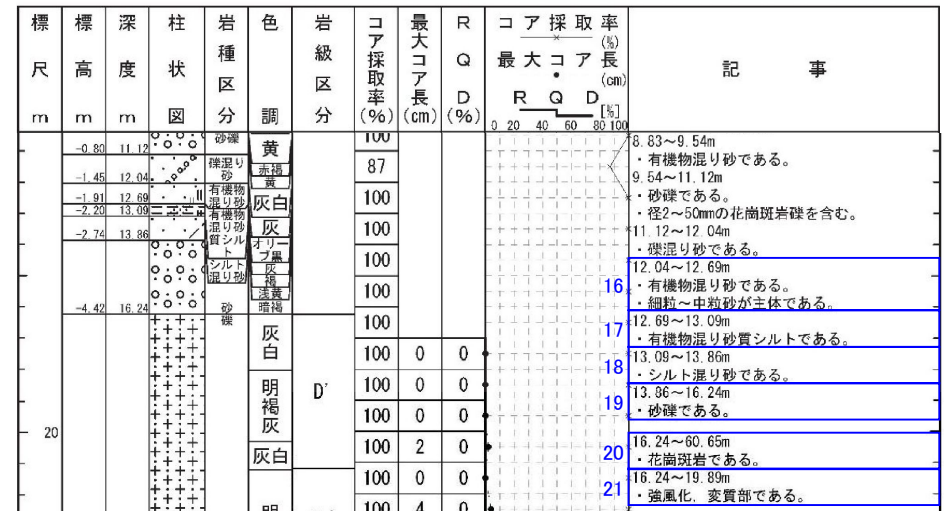
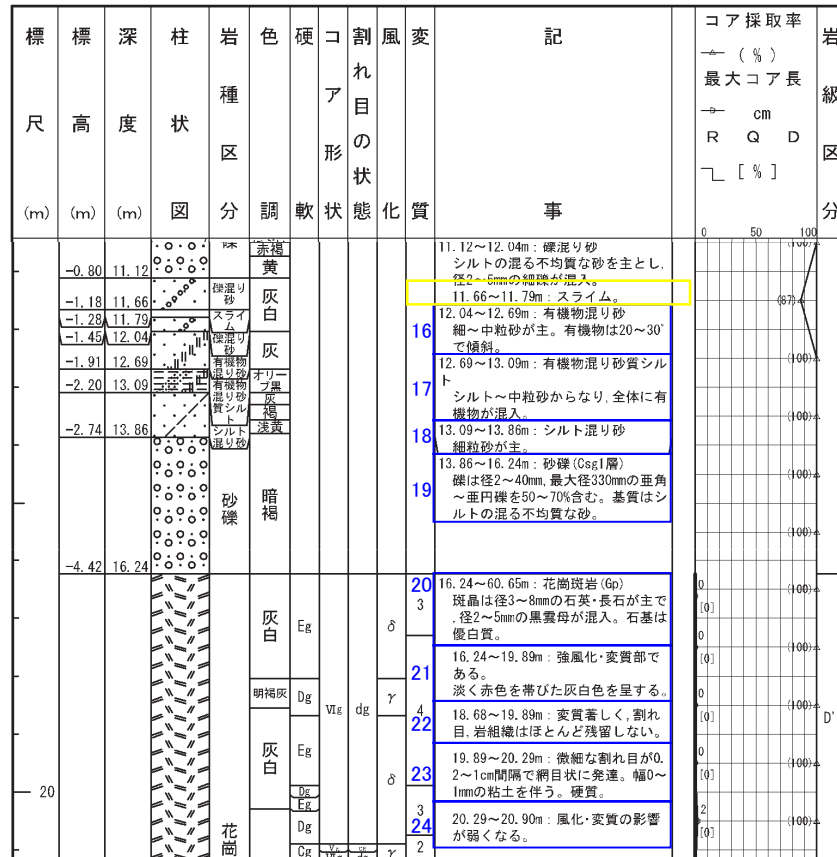
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒～中粒砂が主体であることを記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・色調については、補足的なものであるため削除。
22	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
23	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
24	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

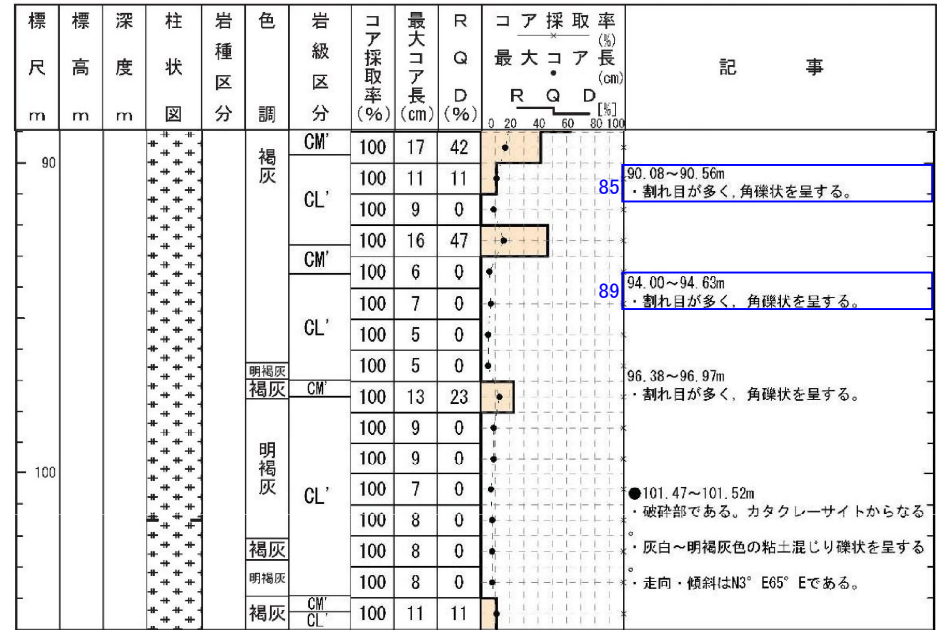
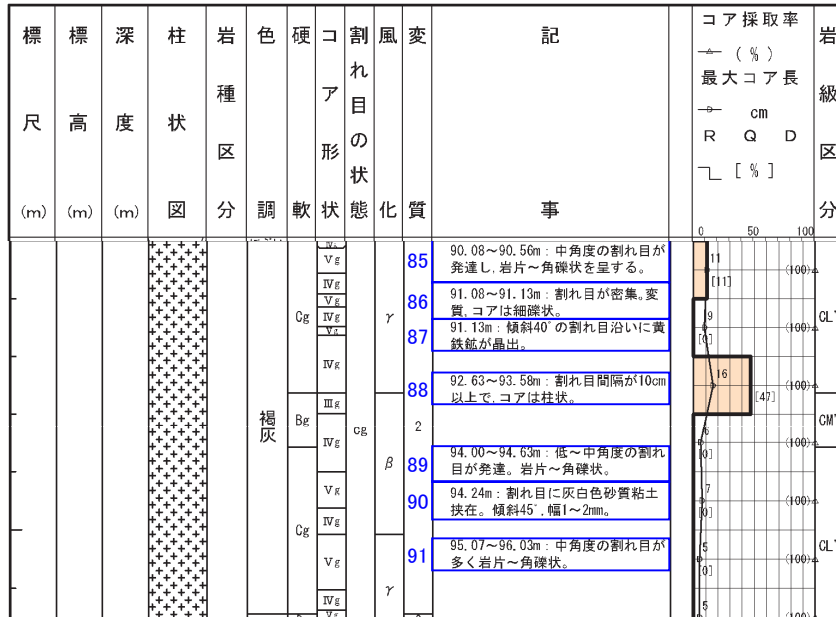
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒~中粒砂が主体であることを記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間ではないため削除。
21	・色調については、補足的なものであるため削除。
22	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。
23	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく連続性や直線性に乏しいことから削除。
24	・変質の程度については、当該区間の周囲と差異が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

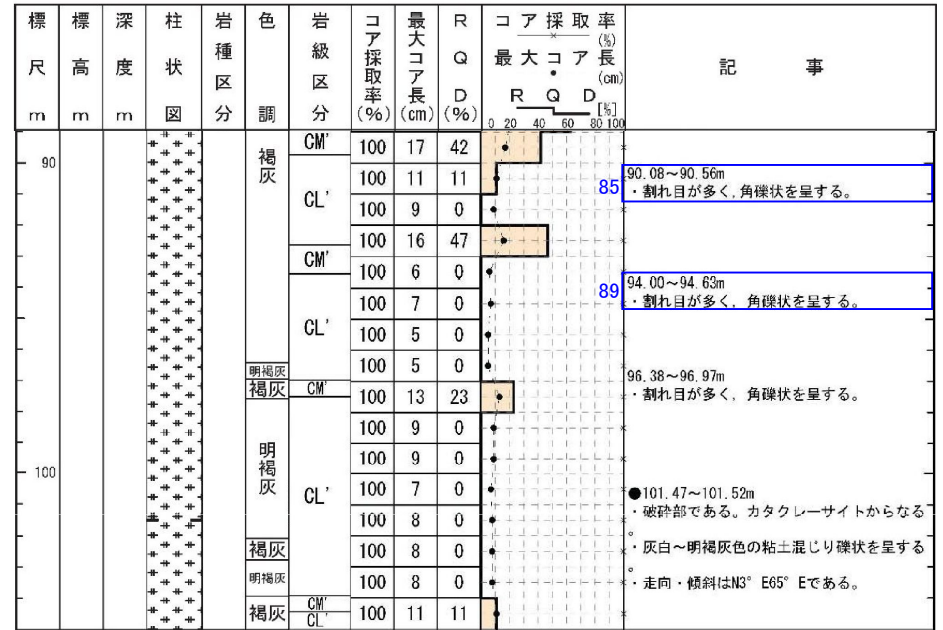
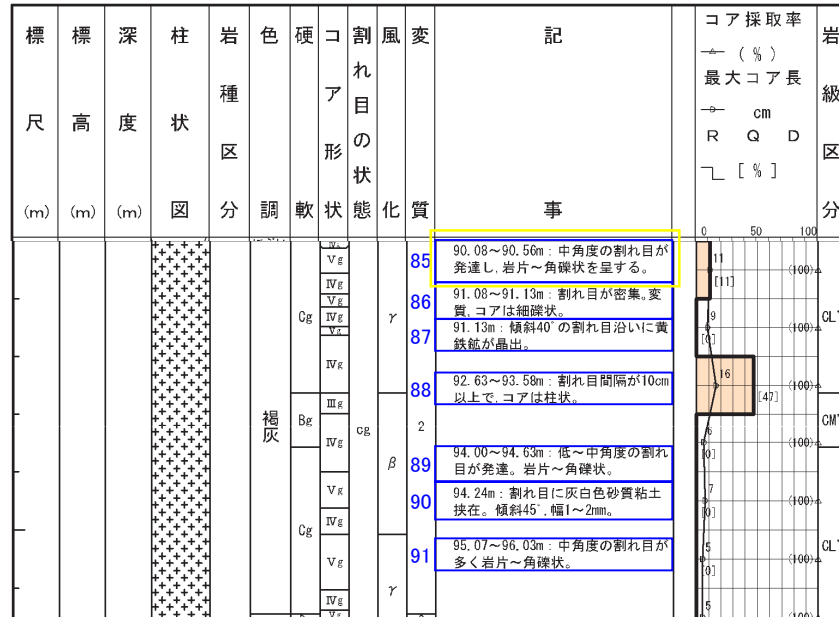
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
86, 87	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
89	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
90	・砂質粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
91	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

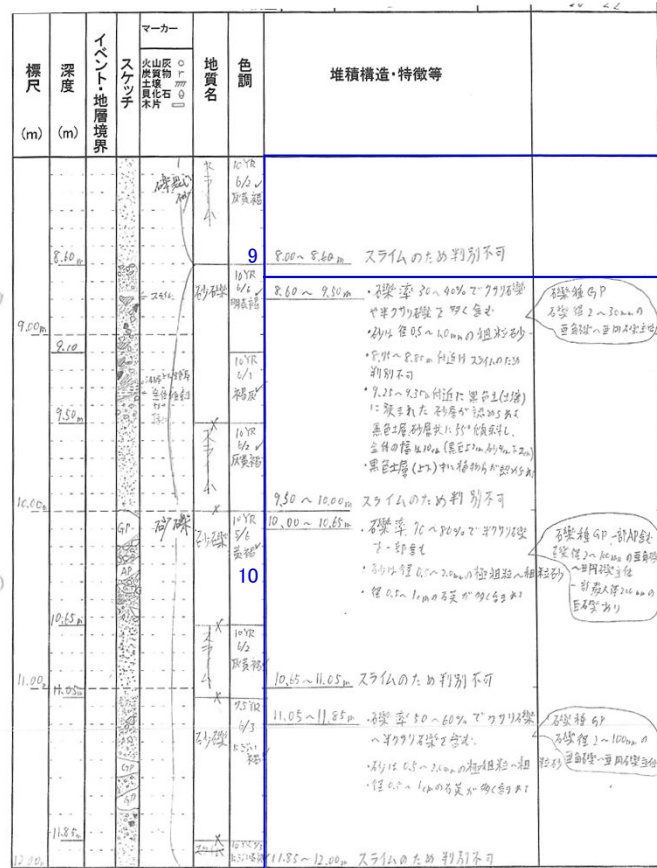


記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
86, 87	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
88	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
89	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
90	・砂質粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
91	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

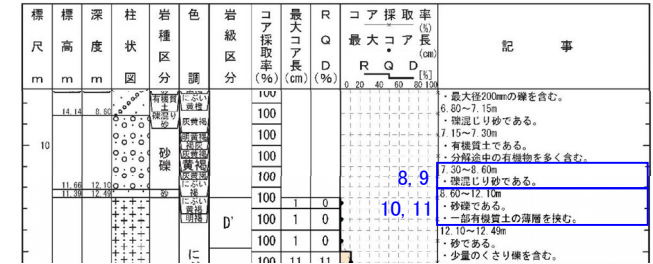
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ○ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr. 花崗斑岩Gp. アブライトAp. 等
境界 明瞭—— 不明瞭--- 亀裂は赤線、角度、赤線等

記事内容
9 8.00~8.60m スライムのため判別不可
8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂円礫主体
10 9.50~10.00m スライムのため判別不可
10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂鉛礫主体一部最大径200mmの巨礫あり
10.65~11.05m スライムのため判別不可
11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体
11.85~12.00m スライムのため判別不可

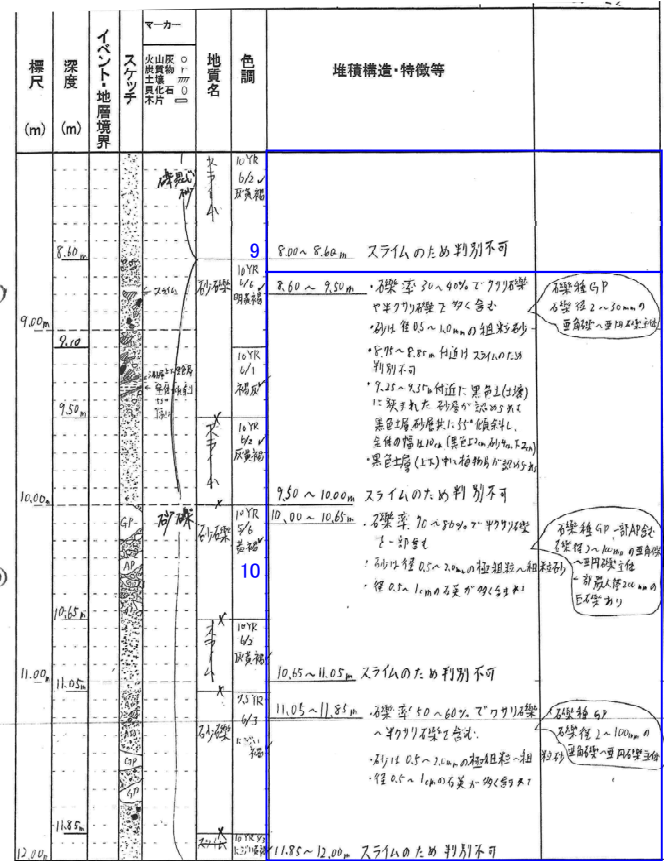


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
10, 11	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・区間内で特異な色調を示し、目立つことから、有機質土の薄層について記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr. 花崗斑岩 Gp. アブライト Ap 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線、角度、糸線等

記事内容
9 8.00~8.60m スライムのため判別不可
8.60~9.50m ・礫率30~40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に5° 傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2~30mmの垂角礫~垂円礫主体
10 9.50~10.00m スライムのため判別不可
10.00~10.65m ・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体一部最大径200mmの巨礫あり
10.65~11.05m スライムのため判別不可
11.05~11.85m ・礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫主体
11.85~12.00m スライムのため判別不可

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
	14.15	8.00					100					・最大径200mmの礫を含む。 6.80~7.15m ・確認しり砂である。 7.15~7.30m ・有機質土である。 ・分級途中の有機物を多く含む。 7.30~8.60m ・確認しり砂である。 8.60~12.10m ・砂礫である。 ・一部有機質土の薄層を挟む。 12.10~12.43m ・砂である。 ・少量のくさり礫を含む。
		8.60					100					
		9.00					100					
		9.50					100					
		10.00					100					
		10.65					100					
		11.05					100					
		11.85					100					
		12.00					100					
							100	11	11			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
9	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。
10, 11	・堆積物の記載は、盛土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・区間内で特異な色調を示し、目立つことから、有機質土の薄層について記載。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 基盤岩コア観察カード

Table with columns for article content (記事内容) and core observation data. Includes detailed descriptions of soil and rock layers.

Table for application form columnar diagram (申請書用柱状図) with columns for scale, depth, lithology, and core data.

Table with columns for core observation data, likely a continuation or detail of the main table.

Table with columns for article (記事) and core observation card (コア観察カード) to application form columnar diagram (申請書用柱状図) conversion notes.

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 基盤岩コア観察カード

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 記事内容

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Title: 記事内容 (continued)

Table with columns for article content (記事) and core observation card (コア観察カード) details. Includes notes on site identification and data recording.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	崩壊・亀裂位置	地質	地層	細区分					RQD	岩質	岩種	基盤岩	観察深度区分	基盤岩コア観察カード 記号・破砕性状・詳細スケッチ等
					崩壊	亀裂	風化	風化	風化						
46	45.36												71		
	45.39												72		
	45.39												73		
	46.12												74		

記事内容	
71	44.83~45.36m: D
72	●45.36~45.39m: 破碎帯(主せん断面45.39m)
	45.36~45.39: Hj
73	45.39m: Hc-2
74	45.39~46.12m: D

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア 長さ (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事
											R	Q	D	その他	
50		+	花崗斑岩	にぶい 黄褐色	D'	100	4	0							●44.24~44.53m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる ・灰褐色の粘土状~灰黄~灰褐~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土: 累計厚2mm ・走向・傾斜はN11° E89° Wである。 ・傾斜は35°である。 ・上盤境界の傾斜は5°~13°、下盤境界の傾斜は70°である。 ●44.53~44.83m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる ・灰褐色の粘土状~明黄~灰白色の硬質粘土状~にぶい橙~灰白~淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色粘土: 累計厚5mm ・走向・傾斜はN86° Eである。 ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は75°~85°である
					CL'	100	6	0							
						100	5	0							
					D'	100	2	0							
						100	4	0							
						100	3	0							
					CL'	100	7	0							
						100	5	0							
					CL'	100	6	0							
						100	5	0							
60		+	花崗斑岩	にぶい 橙	D'	100	2	0						●45.36~45.39m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる ・灰褐色の砂質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐色砂質粘土: 2mm ・走向・傾斜はN43° E70° Eである。 ・傾斜は65°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は65°である	
					CL'	100	8	0							
						100	13	13							
					CM'	100	10	10							
						100	10	10							
						100	16	16							
					CM'	100	10	10							
						100	9	0							

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
71	・岩級とその区間については“岩級区分”欄に示しているため削除。
72, 73	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) ・Φ1~2mmの石英粒5~10%含むとの記載があるが、より径の小さい砂粒子も含むため、砂質粘土状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破碎度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
74	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・粘土脈については、いずれも直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	コア位置	地層	細区分				RQD	岩質	色調	備考
				粘土質	砂質	礫質	その他				
47	46.12	Gp									
	46.17										
	47.40										
	47.51										
	47.73										
	47.83										

基盤岩コア観察カード
 記事・破砕性状・詳細スケッチ等

75 ●46.12～46.17m: 破砕帯(主せん断面46.17m)
 46.12～46.17m: Hj
 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35～70°で大きく湾曲して連続。
 φ5～10m/m粘土化岩片が粘土化基質中に礫状に分布。全体に「粘土質岩片状」呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈「厚さ1m/m」が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m

76 46.17m: Hc-2
 上下端とも35～70°で大きく湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の粘土(ガウジ)、色調は黒褐(10YR3/1)、厚さ2～10m/m

77 46.17～47.40m: D
 46.73m、55°せん断割れ目: 幅1m/m赤褐色粘土伴う。

78 ●47.40～47.51m: 破砕帯(主せん断面47.40m)
 47.40m: Hc-1
 上下端とも58°で直線的に連続。φ1m/m石英粒を5%程度含むや軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1～2m/m

79 47.40～47.51m: Hb
 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2～3m/m石英粒を20～30%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。岩片は認められない。
 色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m

記事内容
75 ●46.12～46.17m: 破砕帯(主せん断面46.17m) 46.12～46.17m: Hj 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35～70°で大きく湾曲して連続。 φ5～10m/m粘土化岩片が粘土化基質中に礫状に分布。全体に「粘土質岩片状」呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈「厚さ1m/m」が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m
76 46.17m: Hc-2 上下端とも35～70°で大きく湾曲して連続。φ1～2m/m石英粒、φ3m/m粘土化岩片を20～30%含む半固結状の粘土(ガウジ)、色調は黒褐(10YR3/1)、厚さ2～10m/m
77 46.17～47.40m: D 46.73m、55°せん断割れ目: 幅1m/m赤褐色粘土伴う。
78 ●47.40～47.51m: 破砕帯(主せん断面47.40m) 47.40m: Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。φ1m/m石英粒を5%程度含むや軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1～2m/m
79 47.40～47.51m: Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2～3m/m石英粒を20～30%含む軟質な「礫質粘土状」を呈する。岩片は認められない。 色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	最大コア長	記事
m	m	図	区分		区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(cm)	
	70				D	100	9	0			●46.12～46.17m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・黒褐色の硬凝じり粘土状～淡黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・黒褐色硬凝じり粘土: 累計厚10mm ・走向・傾斜はN44°E70°Wである。 ・傾斜は35°～70°である。 ・上盤境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は35°～70°である。 ●47.40～47.51m ・破砕部である。 ・正面層サンスである。 ・灰褐色の粘土状～黄褐色の硬質粘土状を呈する。 ・灰褐色粘土: 2mm ・走向・傾斜はN21°E84°Eである。 ・傾斜は58°である。 ・上盤境界の傾斜は58°、下盤境界の傾斜は55°である。 ●49.17～49.20m ・破砕部である。 ・右サンスである。 ・明黄褐色の砂凝じり粘土状～灰白～明黄褐色の硬質粘土～粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色砂凝じり粘土: 累計厚15mm ・走向・傾斜はN47°E45°Wである。 ・傾斜は30°～36°である。 ・上盤境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は23°である。
					CL	100	12	12		75, 76	
					CL	100	3	0			
					灰褐	100	10	10			
					CL	100	9	0			
					灰褐	100	6	0			
					灰褐	100	8	0			
					CL	100	6	0			
					灰褐	100	3	0		78, 79	
					D	100	4	0			
					D	100	5	0			
					D	100	5	0			
					CL	100	7	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
75, 76	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(粘土質岩片状→粘土混じり礫状) ・φ1～2mmの石英粒、φ3mm粘土化岩片を20～30%含むとの記載があるが、粘土化岩片と基質の粘土との境界が不明瞭であることから、礫混じり粘土状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
77	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級とその区間については「岩級区分」欄に示しているため削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・粘土を挟在するが、直線性に乏しいことから削除。 ・せん断割れ目については、粘土の連続性に乏しく、変位基準も不明瞭で、周囲の割れ目と差異が認められないことから削除。
78, 79	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層位	深度	層位番号	地質	地質記号	細区分				RQD	最大コア長	岩級区分	記事番号
					基岩	砂	粘土	その他				
05	78.87										129	
06	79.02										130	
07	79.27										131	
08	79.69										132	
09	79.96										133	
10	80.03										134	
11	80.30										135	
12	80.66										136	
13	81.17										137	
14	81.82											
15	82.51											
16	82.62											
17	82.94											
18	83.00											
19	83.30											
20	84.07											
21	84.09											
22	84.92											
23	85.38											

記事内容
78.87～82.51m: CL 78.87～79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂～φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27～80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27～79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69～79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96～80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5～3 m/m ではさんでいる。
80.30～80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30～80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66～81.87m 硬さ「D」中に硬さ「c」のφ2～3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。
81.17m 55° 割れ目に厚さ10～15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
81.82～81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。
81.87～82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
82.51～82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5～1cmのGp岩片が礫状に分布する
82.62～82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1～2m/m白色粘土脈はさむ
82.94～84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30～83.47m 長石の一部が白濁化する。
84.07～84.09m 上端45°、下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化～細片状化する。 厚さ1～10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。
84.09～84.92m: CH 60～80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。
84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2～3m/mのマンガンを伴う。 84.82～84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。
84.92～85.38m: CL

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事			
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)				
												0	20	40	60	80	100

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129, 130	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄に示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 変色、割れ目の傾斜、マンガン、割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。 80.30～80.40mで割れ目沿いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
131～137	<ul style="list-style-type: none"> 記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層位 番号	地質 記号	色	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	記事 番号	記事 内容
					細砂	中砂	粗砂	礫				
0.0	0.0									129	78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂~φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27~80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69~79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96~80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3 m/m ではさんでいる。	
0.5	0.5									130	80.30~80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30~80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66~81.87m 硬さ「D」中に硬さ「C」のφ2~3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。	
0.5	0.5									131	81.17m 55° 割れ目に厚さ10~15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。	
0.5	0.5									132	81.82~81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。 81.87~82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。	
0.5	0.5									133	82.51~82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5~1cmのGp岩片が礫状に分布する	
0.5	0.5									134	82.62~82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2m/m白色粘土脈はさむ 82.94~84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30~83.47m 長石の一部が白濁化する。	
0.5	0.5									135	84.07~84.09m 上端45°, 下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: CH 60~80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2~3m/mのマンガンを伴う。 84.82~84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92~85.38m: CL	
0.5	0.5									136		
0.5	0.5									137		

記事内容
78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。 79.02m 55° 厚さ3m/m褐色砂~φ2m/m細片化岩片はさむ 79.27~80.66m 硬さ「C」主体 上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」を堅硬 79.69~79.95mは褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質 79.96~80.23m 45° 前後の割れ目が多い。 これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3 m/m ではさんでいる。
80.30~80.40m 割れ目ぞいに砂状化が進む。 80.30~80.35mはコアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア 80.66~81.87m 硬さ「D」中に硬さ「C」のφ2~3cm岩片が断片的に分布 80° 前後の高角度割れ目が多い。
81.17m 55° 割れ目に厚さ10~15m/m で砂と褐色粘土はさむ。 挟在物中と割れ目周辺にφ0.5 m/m 以下の微細な黄鉄鉱伴う。
81.82~81.87m間は風化で締った砂礫状呈する。 81.87~82.51m 割れ目ぞいに砂状化する部分も含まれる。
82.51~82.62m: D 風化で砂状化する。φ0.5~1cmのGp岩片が礫状に分布する
82.62~82.94: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2m/m白色粘土脈はさむ 82.94~84.09: CM ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる 割れ目の挟雑物は少ない。 83.30~83.47m 長石の一部が白濁化する。
84.07~84.09m 上端45°, 下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。 厚さ1~10m/mで厚さ3 m/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: CH 60~80° の高角度の「ゆ着割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m 36° 割れ目の一部に厚さ2~3m/mのマンガンを伴う。 84.82~84.92m 割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟在物は伴わない。 84.92~85.38m: CL

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
129, 130	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、「岩級区分」欄に示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。 硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 変色、割れ目の傾斜、マンガン、割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。 80.30~80.40mで割れ目沿いに砂状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
131~137	記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	採掘 位置	地層 名	固相分				ROD	最大 径 (mm)	観察 位置	記事 番号	記事 内容
				割れ目 径 (mm)	割れ目 数 (個/m)	割れ目 深 (mm)	割れ目 長 (mm)					
0	85.01									138	下位破砕帯の主せん断面と同方向の50~60° 割れ目やゆる割れ目が多い。	
	85.01									139	85.01m 幅1m/m以下 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。	
	85.38									140	●85.38~85.41m破砕帯(主せん断面85.41m) 85.38~85.41m:Hj 上端45~50° で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47° で直線的に連続。φ2~3m/石英粒とφ3~5m/粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」呈する。	
	85.41									141	色調にぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ20~25m/m上端の割れ目ぞいにマンガ ン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:Hc-1 47° で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む 軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m	
	85.41									142	85.41~85.92m:CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40~60° 割れ目主体、砂や粘土をは さむ。 85.92~86.43m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10~30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫 状を呈する。	
	86.43									143	86.43~86.86m:CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。 86.86~87.20m:CL 50~60° 割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。	
	87.20									144	87.20~87.51m:D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1~3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。	
	87.51									145	87.51~93.53m:CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。	
	88.51									146	88.51~88.69m 40~50° の割れ目1~2cm間隔で平行に分布。それと60° 斜 交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。 89.25~89.56m 上下に比べやゝ割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)	

記事内容
138 下位破砕帯の主せん断面と同方向の50~60° 割れ目やゆる割れ目が多い。
139 85.01m 幅1m/m以下 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。
140 ●85.38~85.41m破砕帯(主せん断面85.41m) 85.38~85.41m:Hj 上端45~50° で1ヶ所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47° で直線的に連続。φ2~3m/石英粒とφ3~5m/粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」呈する。
141 色調にぶい黄橙色(10YR7/2)、厚さ20~25m/m上端の割れ目ぞいにマンガ ン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:Hc-1 47° で上下端とも直線的に連続、φ1m/m石英粒をこくわずか(5%以下)含む 軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m
142 85.41~85.92m:CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40~60° 割れ目主体、砂や粘土をは さむ。 85.92~86.43m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10~30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫 状を呈する。
143 86.43~86.86m:CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。 86.86~87.20m:CL 50~60° 割れ目ぞいを主体に軟化が進む。 断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。
144 87.20~87.51m:D 風化で締った礫質砂状を呈する。 幅1~3m/mの橙色粘土も脈状に分布する。
145 87.51~93.53m:CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。 全体に硬さ「C」の岩片が主体である。 割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。
146 88.51~88.69m 40~50° の割れ目1~2cm間隔で平行に分布。それと60° 斜 交~直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。 89.25~89.56m 上下に比べやゝ割れ目が少なくなる。 89.56~89.86m 割れ目ぞいに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
							0.20	40	60	80	100			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
138~146	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for depth (m), lithology, and detailed observations. Includes handwritten notes and classification codes like Cc, D, CL, etc.

記事内容 (Article Content) table with numbered entries (138-146) and detailed descriptions of geological observations in Japanese.

Table with columns for scale (m), height (m), diameter (mm), and other parameters. Includes a small diagram of a core sample.

Summary table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core observation card...). Row 138-146: 記事 138~146, コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図. 記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 φ (m)	深度 (m)	境界 位置 層	地 中 位置	地 質	相区分				R Q D	最大 コア 長 (cm)	採 取 率 (%)	記事
					割れ 目の 形状	割れ 目の 長さ	割れ 目の 角度	割れ 目の 密度				
	91.16			Gp	✓	✓	✓	✓	0.7	147		
	92.32				✓	✓	✓	✓	0.6	148		
	93.53				✓	✓	✓	✓	0.4	149		
	94.00				✓	✓	✓	✓	0.8	150		
	94.07				✓	✓	✓	✓	0.5	151		
	94.88				✓	✓	✓	✓	0.6			

記事内容
147 91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。
148 92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
149 93.53~94.00m:D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
150 94.00~95.85m:CL
151 94.07~94.88m 上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破碎や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。 直上と直下のGpに破碎や変質は与えていない。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	記事
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	
							0.20	40	60	60	100	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
147~151	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 φ (m)	深度 (m)	地層 名称	地質 記号	細区分										基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等		
				割れ目 の形状	割れ目 の長さ	割れ目 の角度	割れ目 の密度	割れ目 の方向	割れ目 の性状	割れ目 の長さ	割れ目 の角度	割れ目 の密度	割れ目 の方向		割れ目 の性状	
91.16																91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染付う。
92.32																92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
93.53																93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
94.00																94.00~95.85m: CL
94.07																94.07~94.88m 上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。直上と直下のGpに破砕や変質は与えていない。

記事内容
147 91.16~91.25m 低角と高角割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染付う。
148 92.32m 53° 割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。
149 93.53~94.00m: D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。
150 94.00~95.85m: CL
151 94.07~94.88m 上下端65°で貫入するアプライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2m/mのカンラン石斑晶が多く、一部で流理構造(65~60°)をもつ。直上と直下のGpに破砕や変質は与えていない。

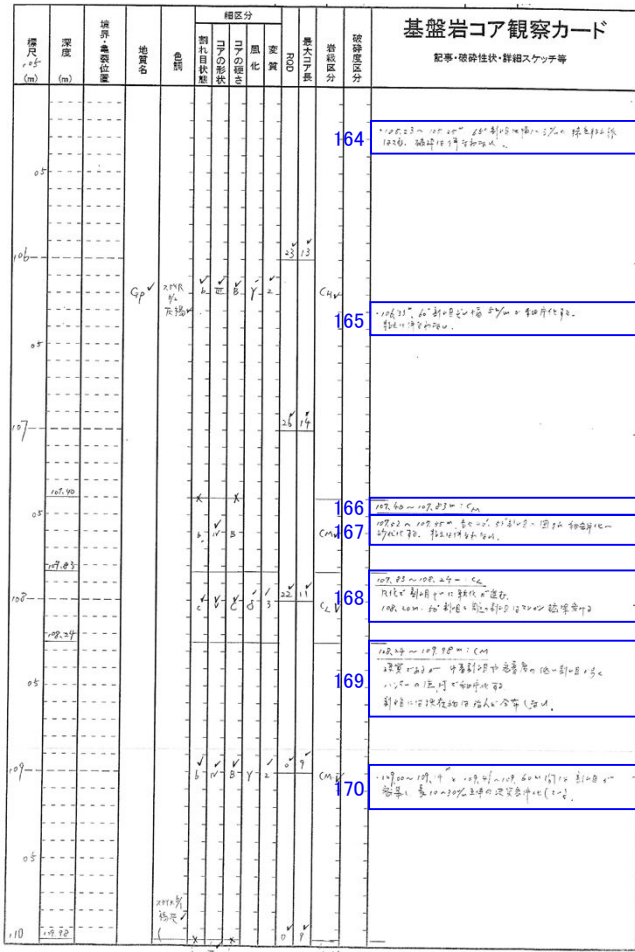
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事	
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	0.20	40	60	80

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
147~151	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
164 105.23～105.25m 65° 割れ目は幅1～3m/mの緑色粘土脈はさむ。破碎は伴わない。
165 106.33m 60° 割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。
166 107.40～107.83m: CM
167 107.52～107.55m 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化～砂状化する。粘土は伴わない。
168 107.83～108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。
169 108.24～109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
170 109.00～109.14mと109.41～109.60m間は割れ目が密集し、長10～30m/m主体の硬質岩片化している。

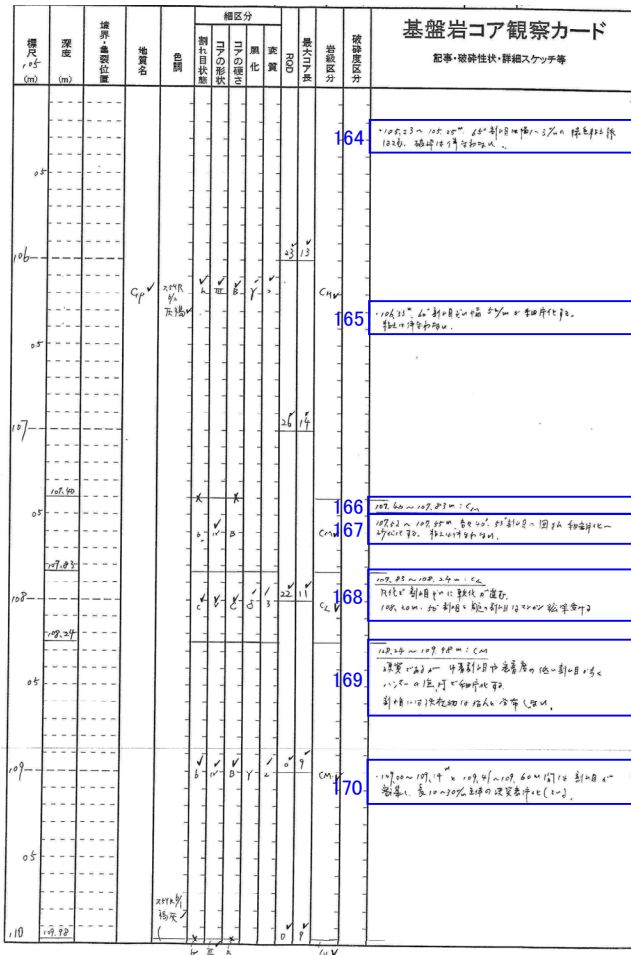
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事		
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)			(%)	(cm)			
												0.20	40	60	80	100

記事	コア観察カード (H27年8月) ⇒ 申請書用柱状図
164～170	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
105.23～105.25m 65° 割れ目は幅1～3m/mの緑色粘土脈はさむ。破砕は伴わない。
106.33m 60° 割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。
107.40～107.83m: CM
107.52～107.55m 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化～砂状化する。粘土は伴わない。
107.83～108.24m: CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。 108.20m 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。
108.24～109.98m: CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。 割れ目には挟在物は殆んど分布しない。
109.00～109.14mと109.41～109.60m間は割れ目が密集し、長10～30m/m主体の硬質岩片化している。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	記事
m	m	m	図	区分	調	区分						

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
164～170	・記載漏れのため比較対象無し。※2

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 深さ (m)	深度 (m)	境界位置	地質	細区分	細区分				最大コア長 (cm)	RQD	最大コア径 (cm)	観察区分	記事
					割れ目状態	開口状況	風化状況	その他					
0F	119.30										187	119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	
0F	120.78										188	120.78~122.00m: CH 130~140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。	
0F	122.00										189	122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	
0F	125.06										190	124.54m 55° 割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	

記事内容
187 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
188 120.78~122.00m: CH 130~140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。
189 122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
190 124.54m 55° 割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。

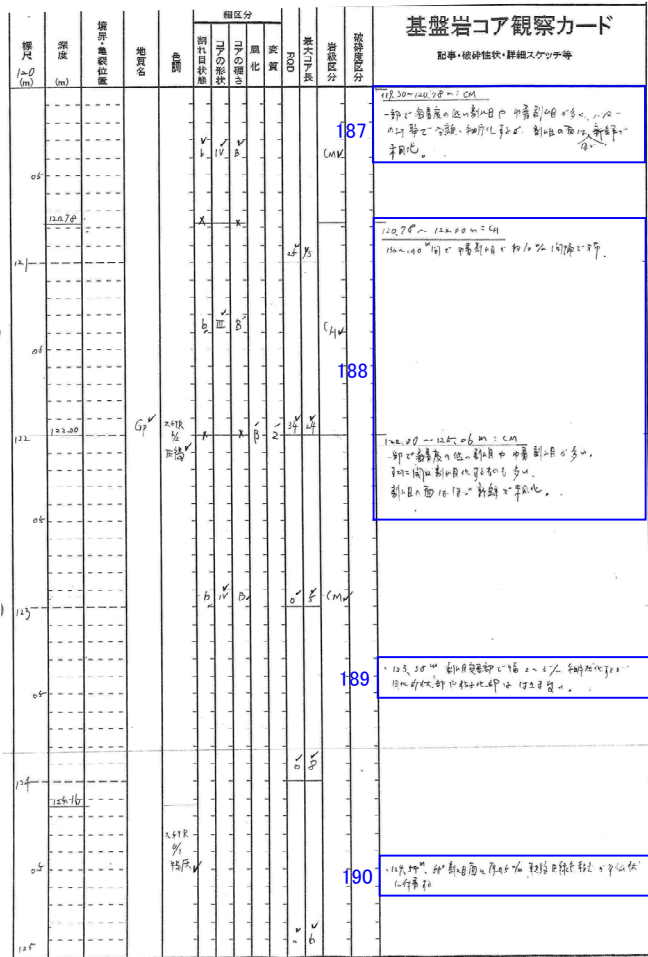
標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)		記事
									R	Q	
					CM'	100	15	25			B 119.30~138.00m 硬質であるが、全体に割れ目が多く、岩片~短柱状を主体とする。
					CH'	100	24	34			
					CM'	100	5	0			125.06~125.28m 割れ目面に細片状を呈する。 割れ目には挟在物は見られない。 127.16~127.25m 僅10m前後の角礫状を呈する。
					CM'	100	8	0			
					CM'	100	6	0			
					CM'	100	8	0			
					CM'	100	10	10			
					CM'	100	9	0			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・記載漏れのため比較対象無し。※2
188	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況・風化状況については、補足的なものであるため削除。
189	・細片化が見られるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
190	・粘土の挟在が見られるが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質である、岩片~短柱状を主体とすると記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
120.78~122.00m: CH 130~140m間でゆ着割れ目が約10m/m間隔で分布。
122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。
123.38m 割れ目交差部で幅2~3m/m細片状化するが、風化砂状部や粘土化部は はさまない 。
124.54m 55° 割れ目面に厚0.5m/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)		記事
										R	Q	
						CM'	100	15	25			119.30~138.00m 硬質であるが、全体に割れ目が多く、岩片~短柱状を主体とする。
						CH	100	24	34			
						CM'	100	5	0			
						CM'	100	8	0			
						CM'	100	6	0			125.06~125.28m 割れ目沿いに細片状を呈する。割れ目には挟在物は見られない。
						CM'	100	8	0			
						CM'	100	10	10			
						CM'	100	9	0			127.16~127.25m 僅10mm前後の角礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・記載漏れのため比較対象無し。※2
188	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態・開口状況・風化状況については、補足的なものであるため削除。
189	・細片化が見られるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
190	・粘土の挟在が見られるが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
B	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬質である、岩片~短柱状を主体とすると記載。

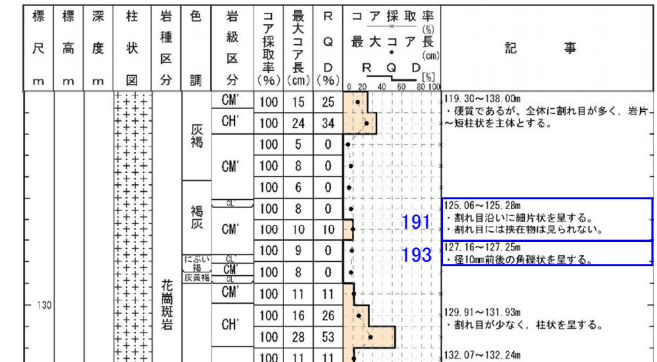
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 曲線 位置	地層名	色調	割れ目 状況	コア 形状 状況	風化	高層	最大 コア 長さ	破砕 区分	基礎岩コア観察カード	
											記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
125.06	125.06										191	125.06~125.28m: CL 着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。
125.28	125.28										192	125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向の着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほとんど新鮮、未風化。
127.16	127.16										193	127.16~127.25m間はφ10m/前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2~5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
127.68	127.68										194	127.68~128.08m: CL 厚さ5~10m/程度の片状コア主体で挟在物は下部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。
128.08	128.08										195	128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
128.64	128.64										196	128.64~128.88m: CL φ10m/前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
128.88	128.88										197	128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。

記事内容
191 125.06~125.28m: CL 着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土ははさまない。
192 125.28~127.68m: CM 開口割れ目と平行方向の着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほとんど新鮮、未風化。
193 127.16~127.25m間はφ10m/前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10m/mがφ2~5m/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
194 127.68~128.08m: CL 厚さ5~10m/程度の片状コア主体で挟在物は下部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「礫質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさまない。
195 128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。
196 128.64~128.88m: CL φ10m/前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
197 128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の低角度割れ目の交差部ではφ10m/前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部ははさまない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
191	・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。
192	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の開口状況・密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については、岩級区分に含めて示しているため削除。
193	・割れ目の傾斜、変色については、補足的なものであるため削除。 ・細礫状部の幅については、ばらつきがあるため削除。
194	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・片状コア主体で、一部で礫質砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
195	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・風化の程度については、当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
196	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示しているため削除。 ・割れ目沿いの風化については、補足的なものであるため削除。 ・角礫状を呈し、一部で砂が付着するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
197	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄に示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで細片化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Includes handwritten notes and diagrams.

Table with columns for core observation data including depth, lithology, and sampling points. Includes handwritten notes and diagrams.

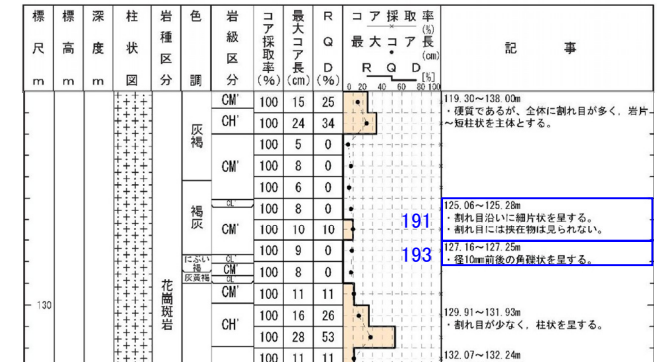


Table with columns for '記事' (Notes) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core observation card to application columnar diagram). Contains detailed notes for items 191-197.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

層別	深度 (m)	境界線位置	地層	色	細区分	RQD	最大コア長	岩級区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
209	139.82								記事・破砕性状・詳細スケッチ等
210	139.82								
211	139.82								
212	144.00								

記事内容
209 ●139.82~139.88m破砕帯(主せん断面139.82m)
210 139.82m:Hc-1
52°で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は暗緑灰(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m
139.82~139.88m:Hj
52°で上下端とも直線的に連続。φ3~5m/mに細かく岩片化。岩片間には砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは主せん断面方向に配列している。全体に「砂混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m
139.88~139.95m:D
主せん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。
139.95~140.03m:CL
硬さ「C」岩片主体。
140.03~141.27m:CM
堅硬だが割れ目が多い。コア長10cm以下の短棒状コア主体
割れ目挟在物は分布しない。
141.27~142.31m:CL
ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多い
141.55m以浅では割れ目に風化起因の砂や暗緑灰色粘土など挟在物も多く全体に軟化する。
141.55m以深では挟雑物のない割れ目が主体。
142.31~144.00m:CM
岩片は硬くなる(硬さ「B」)。
143.36m以深では割れ目ぞいに暗緑灰色で幅1m/m程度の砂~粘土をフィルム状にはさむ割れ目が多い
143.93m以深では割れ目周辺が暗緑灰色帯びる。
(孔底)

標尺	高度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD					記事
								0	20	40	60	80	
					CM	100	6	0					
					CL	100	11	11					135.80~136.00m ・割れ目沿いに、径10~30mmの細片化している。
					CL	100	6	0					●139.82~139.88m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる ・暗緑灰~灰褐色の粘土状~暗緑灰色の砂混じり礫状を呈する。 ・暗緑灰~灰褐色粘土・累計厚1mm ・走向・傾斜はN27°E88°Eである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は52°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
209~211	<ul style="list-style-type: none"> ・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・表現の見直し(砂混じり岩片状→砂混じり礫状) ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
212	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・岩組織の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・割れ目の有無、割れ目の密着状態、色調については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないため削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core observation data including depth (m), diameter (mm), and detailed descriptions of rock layers and sampling points (e.g., 209, 210, 211, 212).

Table for core observation card conversion with columns for article content (記事内容) and depth (m). It lists specific observations for depths 209, 210, 211, and 212.

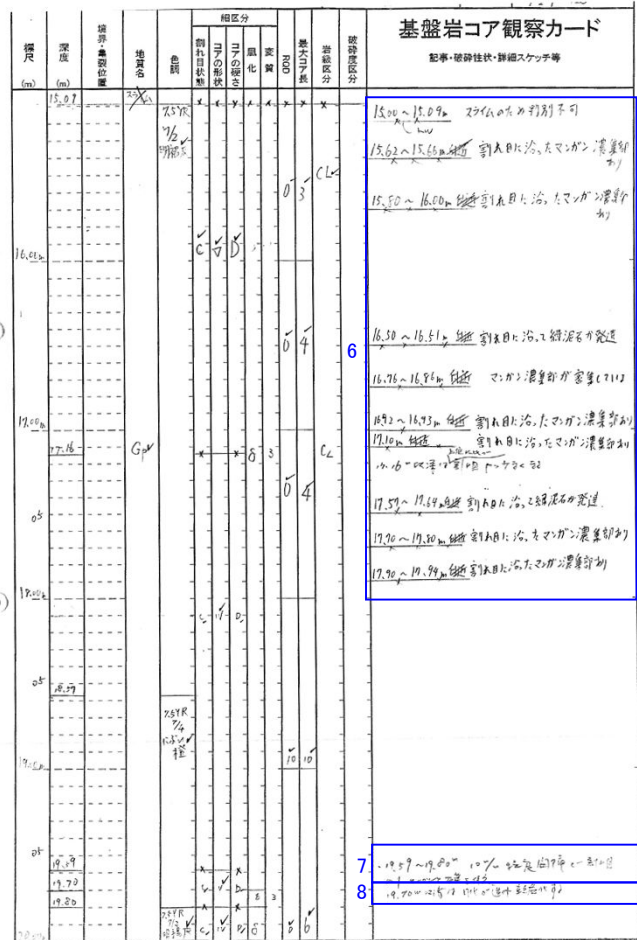
Table for application form columnar diagram with columns for scale, depth, diameter, and various statistical data points (R, Q, D, etc.) for different core sections.

Table with 2 columns: '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core observation card ⇒ application form columnar diagram). It contains detailed notes and corrections for items 209~211 and 212.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
15.00~15.09m	スライムのため判別不可
15.62~15.66m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80~16.00m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.50~16.51m	割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76~16.86m	マンガン濃集部が密集している
16.92~16.93m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16m	以上は上位に比べ割れ目がやゝ少なくなる
17.57~17.64m	割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70~17.80m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90~17.94m	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59~19.80m	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70m	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級区分	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
		15.00		明徳灰			100	3	0		100	3	0			15.53~15.75m ・花崗岩である。
		15.62		明徳灰			100	3	0		100	3	0			19.59~19.80m ・10m程度の間隔で、割れ目が分布する。
		15.80		明徳灰			100	4	0		100	4	0			21.79~21.83m ・割れ目沿いに砂状化している部分が多い。
		16.50		明徳灰			100	4	0		100	4	0			28.02~28.88m ・割れ目が多く、岩片~層状を呈する。
		16.76		明徳灰			100	10	10		100	6	0			●21.15~31.68m ・破砕部である。
		16.92		明徳灰			100	12	12		100	12	12			・正断層センスである。
		17.10		明徳灰			100	8	0		100	8	0			・灰黄色の砂泥じり粘土状~明色灰色の硬質粘土状~に富み黄緑~に富み黄色の粘土泥じり層状を呈する。
		17.16		明徳灰			100	23	23		100	23	23			・定向・傾斜は7°30'Nである。
		17.57		明徳灰			100	15	27		100	15	27			・傾斜は38°である。
		17.70		明徳灰			100	7	0		100	7	0			・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
6	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
7	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
8	<ul style="list-style-type: none"> 風化を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置	地層名	細区分										基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色	割れ目状態	コアの形状	風化	RQD	岩塊区分	岩級区分	岩級区分	岩級区分	岩級区分		岩級区分
15.07			7/6 明徳灰												15.00~15.09m スライムが判別不可
															15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.00															16.30~16.51m 割れ目に沿った緑泥石が発達
															16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
															16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.00															17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															17.16m 以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
															17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
															17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
															19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
															19.70m 以浅は風化が進み軟質化する

記事内容
15.00~15.09m スライムのため判別不可
15.62~15.66m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
15.80~16.00m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
16.30~16.51m 割れ目に沿って緑泥石が発達
16.76~16.86m マンガン濃集部が密集している
16.92~16.93m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.10m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.16m 以深は上位に比べ割れ目や少なくなる
17.57~17.64m 割れ目に沿って緑泥石が発達
17.70~17.80m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
17.90~17.94m 割れ目に沿ったマンガン濃集部あり
19.59~19.80m 10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。
19.70m 以浅は風化が進み軟質化する

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 (m)	岩種 区分	色	岩級 区分	最大 コア 長 (cm)	R D (%)	コア採取 率 (%)	最大コア 長 (cm)	記事
						100	3	0		13.53~13.75m ・花崗岩である。
						100	3	0		
						100	4	0		19.59~19.80m ・10m程度の間隔で、割れ目が分布する。
						100	4	0		27.79~28.03m ・割れ目沿いに砂状化している部分が多い。
						100	4	0		28.02~28.88m ・割れ目が多く、岩片~層状を呈する。
						100	6	0		●27.15~31.68m ・破砕部である。
						100	12	12		・正断層センスである。
						100	8	0		・灰黄色の砂質じり粘土~明色灰色の硬質 粘土状~にぶい黄緑~にぶい黄色の粘土質じり 層状を呈する。
						100	23	23		・灰黄色砂質じり粘土：累計厚10m ・走向・傾斜は7°30'Nである。
						100	15	27		・傾斜は38°である。
						100	7	0		・上盤境界の傾斜は20°、下盤境界の傾斜は 43°である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
6	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 スライム区間については、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため、コア写真で示すこととし削除。 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
7	<ul style="list-style-type: none"> マンガン、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
8	<ul style="list-style-type: none"> 風化を伴う硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

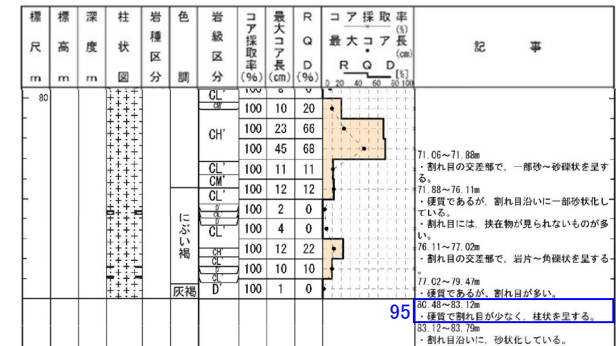
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 分D (m)	深度 (m)	標尺 位置	地質 記号	細区分							硬質 記号	岩級区分	記事 番号	記事 内容
				細粒 砂岩	中粒 砂岩	粗粒 砂岩	砂質 粘土	シル 質	頁 岩	頁 岩				
80.19											94	80.19~80.42m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目と含れ目 割れ目挟在物は含有しない。		
80.48											95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物 は分布しない。 ゆるぎ割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布 をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。		
81.10											96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。		
82.10											96	82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。		
82.72												82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む		

記事内容	
94	80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
95	80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆるぎ割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
96	81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
96	82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりもさらに硬質となっている。
	82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
95	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

標尺の 寸法 (m)	深度 (m)	地質 分類記号	地質 名称	細区分				岩種 区分	硬質 区分	記事
				割れ目 性状	風化 性状	色調	鉱物 性状			
0.00	0.00			○	○	○	○	○		
0.05	0.05			○	○	○	○	○		
0.10	0.10			○	○	○	○	○		
0.15	0.15			○	○	○	○	○		
0.20	0.20			○	○	○	○	○		
0.25	0.25			○	○	○	○	○		
0.30	0.30			○	○	○	○	○		
0.35	0.35			○	○	○	○	○		
0.40	0.40			○	○	○	○	○		
0.45	0.45			○	○	○	○	○		
0.50	0.50			○	○	○	○	○		
0.55	0.55			○	○	○	○	○		
0.60	0.60			○	○	○	○	○		
0.65	0.65			○	○	○	○	○		
0.70	0.70			○	○	○	○	○		
0.75	0.75			○	○	○	○	○		
0.80	0.80			○	○	○	○	○		
0.85	0.85			○	○	○	○	○		
0.90	0.90			○	○	○	○	○		
0.95	0.95			○	○	○	○	○		
1.00	1.00			○	○	○	○	○		

基盤岩コア観察カード
記事・硬質性状・詳細スケッチ等

94 80.19~80.48m: CM
一部のコアに密着度の低い割れ目と含んでいる
割れ目挟在物と含有しない。

95 80.48~83.12m: CH
堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。
ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。
全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。
長石の白濁化は殆んど認められない。

96 81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。
劣化は伴わない。

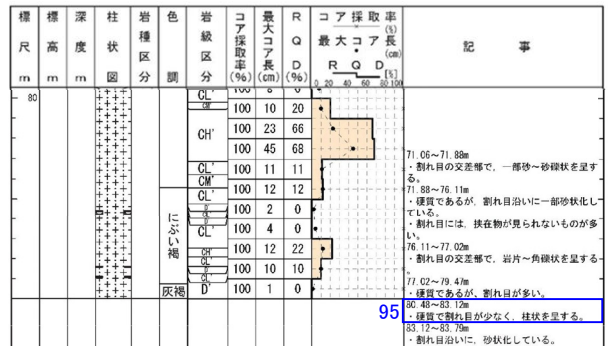
96 82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英
が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。

96 82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
80.19~80.48m: CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる 割れ目挟在物は分布しない。
80.48~83.12m: CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆず割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布をする程度。 全体にφ2~3m/m暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。
81.10~81.35m φ2~5m/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おびる。 劣化は伴わない。
82.10~82.30m 珪化変質によりφ5~10m/m斑点状~幅10m/m脈状の石英 が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。
82.72~82.86m コア中に密着度の低い割れ目を含む

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
94	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態や挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
95	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの硬さ”欄や“コアの形状”欄に基づき、硬質、柱状と記載。 ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・挟在物の有無、割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
96	<ul style="list-style-type: none"> ・マンガン、色調、鉱物の晶出、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core depth (m), lithology, and observation notes. Includes a detailed log of core sections from 85.15m to 87.90m.

記事内容 (Article Content) table containing detailed descriptions of core sections, including lithology, grain size, and structural observations for various depth intervals.

申請書用柱状図 (Application Form Columnar Diagram) showing a graphical representation of the core log with depth, lithology, and sampling data.

Table with 2 columns: 記事 (Article) and コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図 (Core Observation Card (Aug 2027) ⇒ Application Form Columnar Diagram). It provides a summary of the core log entries and their corresponding descriptions.

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for core depth (m), diameter (cm), and lithological descriptions. Includes handwritten notes and symbols.

記事内容 (Article Content) table with columns for depth (m) and detailed lithological descriptions for various intervals.

申請書用柱状図 (Application Form Columnar Diagram) table with columns for depth, diameter, and lithological descriptions, including a small diagram of the core.

Table with columns for '記事' (Article) and 'コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図' (Core Observation Card (H27 Aug) ⇒ Application Form Columnar Diagram), containing detailed notes and corrections for each interval.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

凡例	深度 (m)	層別	採取位置	心位置	詳細	細区分				RQD (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	岩種区分	色調	基盤岩コア観察カード	
						硬さ	割れ目	変色	鉱物脈						観察者	観察日
	05															95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、動脈は途中で尖滅している。 95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
	76															96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ
	97															97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルトから細砂脈をはさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。 97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土土部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
	98															98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、で深は風化で軟化している
	99															99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

記事内容
95.46m 55° 割れ目ぞい幅10~15m/mが褐色化し、硬さ「D」に軟化。上盤側に幅7m/m方解石を脈状に伴うが、動脈は途中で尖滅している。 95.90~96.00m 割れ目が10~20m/m間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟化するが砂状部は分布しない。
96.60~96.63m 割れ目ぞい幅10m/m程度が淡褐色化し、幅1~2m/m砂状部をはさむ
97.36m 35° 割れ目に淡緑色シルトから細砂脈をはさむ。 その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。 97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる 粘土土部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い
98.48~101.31m: CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。 粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する 99.44m以下は岩片は硬質、で深は風化で軟化している
99.16~99.45m 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。 99.44~99.90mは割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。 特に99.76m~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
		100						25	27					明褐色~灰褐色粘土・累計厚8mm 走向・傾斜は不明、概70°である。 傾斜は51°である。 上盤境界の傾斜は45°である。 94.40~97.36m ・窪地で割れ目が少なく、柱状を思わせる。 98.48~101.31m ・割れ目ぞいに、砂状化している。 ・長石は概ね白濁化している。
								9	0				124	
								11	11					
								4	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
123	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜・変色、鉱物脈、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 一部割れ目沿いに砂状化、シルトや砂の挟在がみられるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 長石の白濁化については、風化・変質に関する補足的なものであるため削除。
124	<ul style="list-style-type: none"> 岩級については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
125	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 一部割れ目沿いに砂状化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

Table with columns for depth (m), lithology, and core observation details. Includes handwritten notes and diagrams.

Table with columns for article content (記事内容) and core observation details. Includes handwritten notes and diagrams.

Table with columns for scale, height, diameter, and core observation details. Includes handwritten notes and diagrams.

Table with columns for article (記事) and core observation card details. Includes handwritten notes and diagrams.

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色調	岩級	備考	細区分														
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
	134.70																			
	134.80																			
	134.90																			
	135.00																			
	135.10																			
	135.20																			
	135.30																			
	135.40																			
	135.50																			

記事内容	
170	<p>●133.75~133.92m: 破砕帯(主せん断面133.75m)</p> <p>133.75m:Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は明緑灰(10G 7/1)、厚さ0.5~1m/m</p> <p>133.75~133.80m:Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な「礫質粘土状」呈する。硬さ「D」岩片中には主せん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰(10G 6/1)、厚さ30~40m/m</p> <p>133.80~133.92m:Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10m/m岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰(10G 6/1)、下端側がオリブ灰(2.5GY 5/1)、厚さ100m/m</p>
171	<p>●133.92~134.15m 硬さ「C」主体</p>
172	

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
m	m	m	図		分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
130					明緑灰	100	5	0					灰白色の粘土状~灰白色の粘土混じり礫状を呈する。
					明緑灰	100	3	0					灰白色粘土: 累計厚1mm
					明緑灰	100	3	0					走向・傾斜はN11° E22°である。
					明緑灰	100	2	0					傾斜は15°である。
					明緑灰	100	5	0					上層境界の傾斜は50°、下層境界の傾斜は50°~66°である。
					明緑灰	100	3	0					●133.92~133.97m
					明緑灰	100	3	0					破砕部である。カタクレーサイトからなる。
					明緑灰	100	4	0					暗緑灰色の粘土混じり粘土状~灰白色の粘土混じり礫状を呈する。
					明緑灰	100	3	0					礫混じり礫状を呈する。
					明緑灰	100	3	0					暗緑灰色砂混じり粘土: 累計厚5mm
					明緑灰	100	3	0					走向・傾斜はN2° E81° Eである。
					明緑灰	100	3	0					傾斜は15°である。
					明緑灰	100	5	0					上層境界の傾斜は30°、下層境界の傾斜は62°である。
					明緑灰	100	5	0					130.79~131.79m
					明緑灰	100	3	0					礫を混じり、砂状化している。
					明緑灰	100	5	0					133.75~134.23m
					明緑灰	100	4	0					●133.75~133.92m
					明緑灰	100	7	0					破砕部である。カタクレーサイトからなる。
					明緑灰	100	6	0					●133.75~133.92m
					明緑灰	100	3	0					破砕部である。
					明緑灰	100	2	0					●134.15~134.23m
					明緑灰	100	4	0					破砕部である。
					明緑灰	100	6	0					正断層を伴っている。
					明緑灰	100	6	0					オリブ灰~暗オリブ灰の粘土状~オリブ灰色の粘土混じり礫状を呈する。
					明緑灰	100	5	0					オリブ灰~暗オリブ灰色粘土: 累計厚20mm
					明緑灰	100	6	0					走向・傾斜はN16° E67° Eである。
					明緑灰	100	6	0					傾斜は75°である。
					明緑灰	100	5	0					上層境界の傾斜は75°である。
					明緑灰	100	5	0					134.23~136.54m
					明緑灰	100	5	0					花崗斑岩である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
170, 171	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 表現の見直し(粘土混じり岩片状→粘土混じり礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ボアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、HbやHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 粘土脈については、いずれも連続性や直線性に乏しいため削除。
172	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

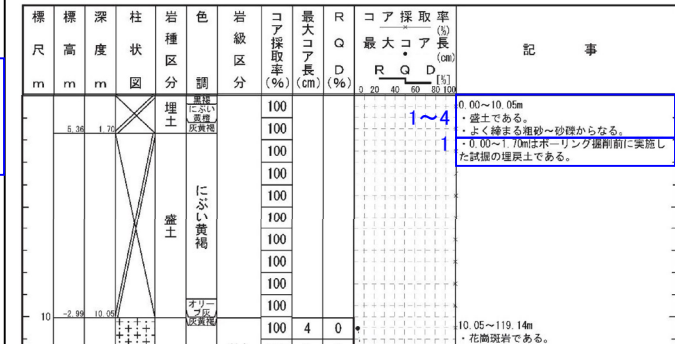
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	イソント 地層境界	スケッチ	火山灰 堆積物 層 厚 (cm)	地質名	色調	堆積構造・特徴等
0	0.35				埋土		0~1.70m 埋土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂
1	1.00				盛土		1.70~10.05m 盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混り粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m 砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.5m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。
2	2.70				埋土		
3	3.68						

スケッチ: 線はクサリ 半クサリ 硬質 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 不明瞭 亀裂は赤線, 角度, 赤線等

記事内容
0~1.70m 埋土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂
1.70~10.05m 盛土 構造物基礎の盛土部 よく締った礫混り粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m 砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.5m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガンで表面が黒色化した石英粒が濃集している。

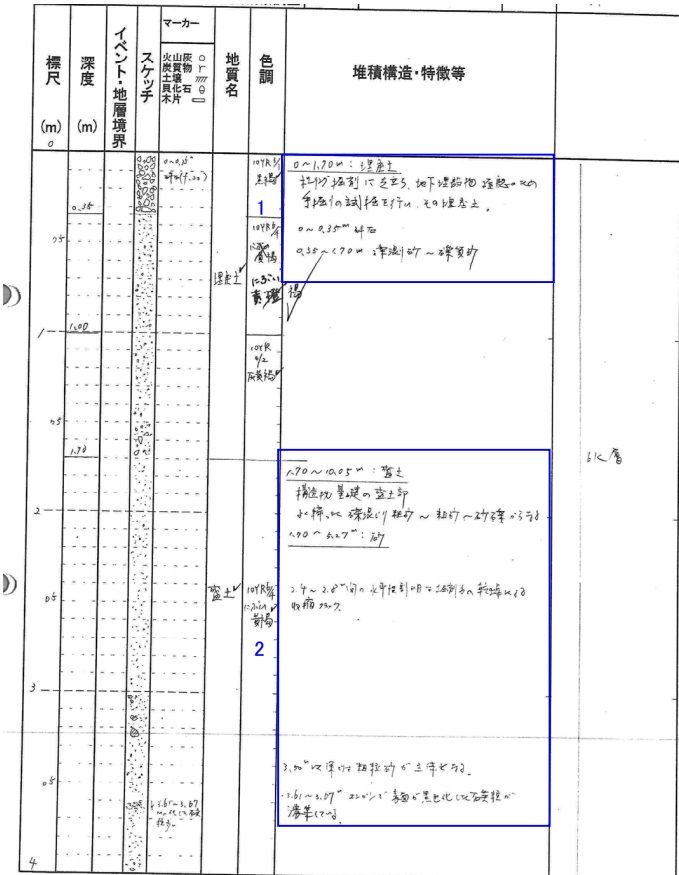


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。

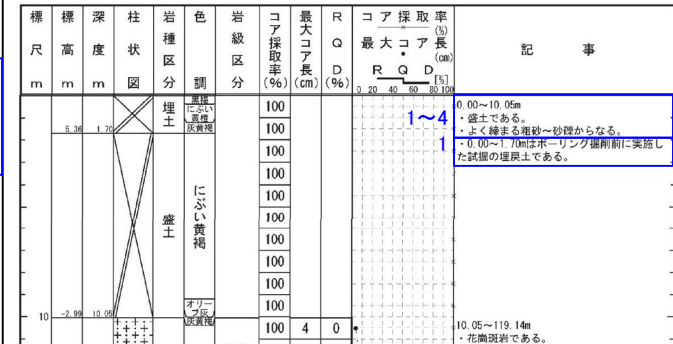
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
<p>0~1.70m:埋戻土 ボーリング掘削に先立ち、地下埋設物確認のため手掘りの試掘を行い、その埋戻土。 0~0.35m 砕石 0.35~1.70m 礫混り砂~礫質砂</p>
<p>1.70~10.05m:盛土 構造物基礎の盛土部 よく締まった礫混じり粗砂~粗砂~砂礫からなる 1.70~5.27m:砂 2.4~2.8m間の水平性割れ目は掘削後の乾燥による収縮クラック。 3.50m以深では粗粒砂が主体となる。 3.61~3.67mマンガで表面が黒色化した石英粒が濃集している。</p>

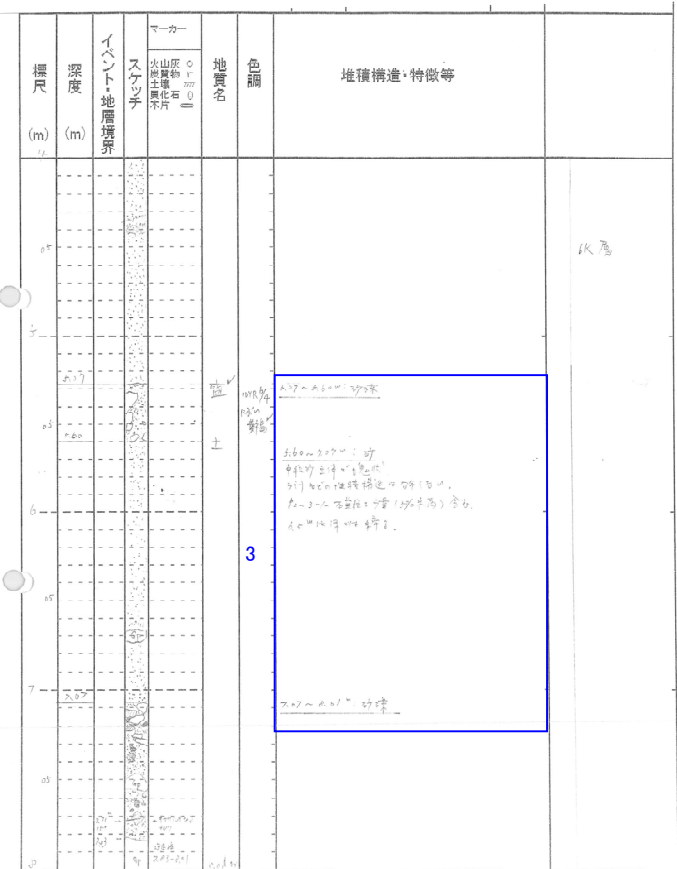


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

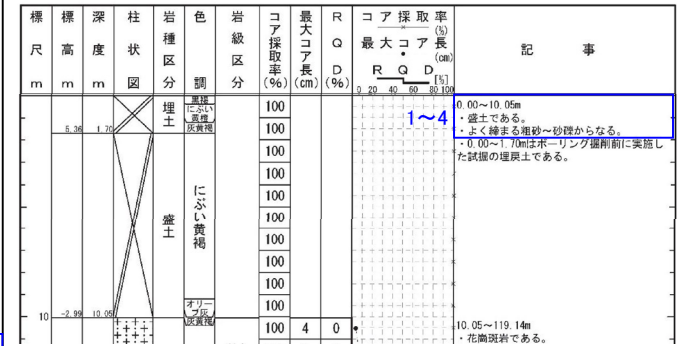
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容

5.27～5.60m 砂礫
 5.60～7.07m 砂
 中粒砂主体で塊状
 ラミナなどの堆積構造は分布しない。
 $\phi 2 \sim 3\text{m/m}$ 石英粒を少量(5%未満)含む。
 6.5m以深では締る。
 7.07～8.01m 砂礫



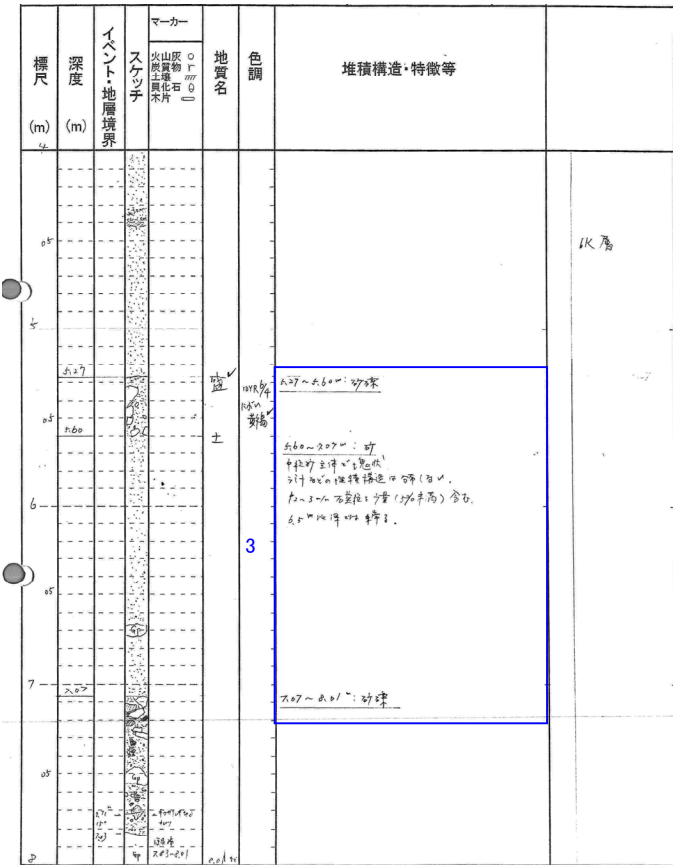
スケッチ: 礫はクサリ、半クサリ、硬質、礫種は黒雲母花崗岩Gr、花崗斑岩Gp、アブライトAp等
 境界 明瞭、不明瞭、亀裂は赤線、角度、糸線等

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1～4	<ul style="list-style-type: none"> 堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂～砂礫からなるとまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭--- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事内容
<p>5.27~5.60m: 砂礫 5.60~7.07m: 砂 中粒砂主体で塊状 ラミナなどの堆積構造は分布しない。 φ2~3m/m石英粒を少量(5%未満)含む。 6.5m以深では締る。 7.07~8.01m: 砂礫</p>

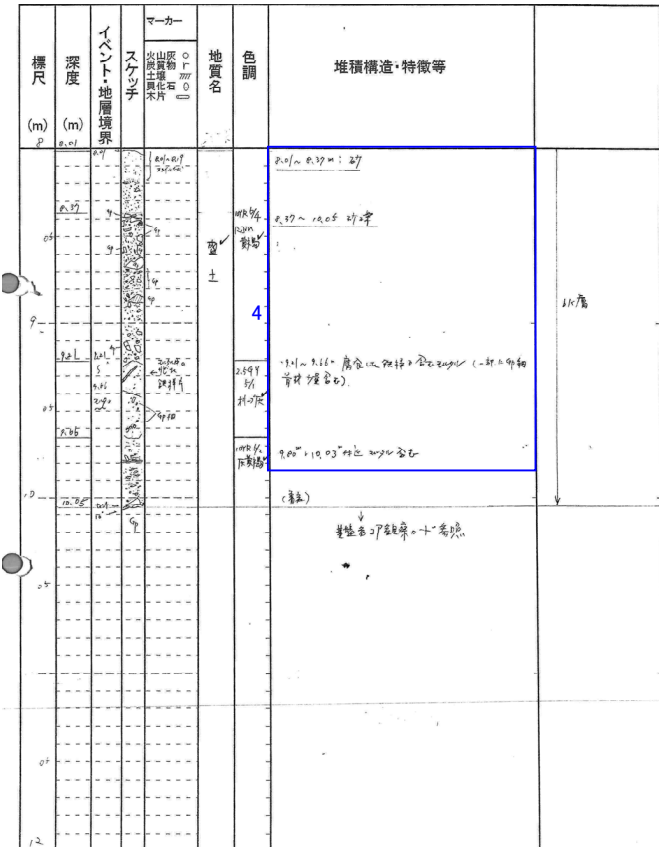
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	記事
		5.27	埋土	にふい黄褐			100					1~4		0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試験の埋戻土である。
		5.60	埋土	にふい黄褐			100							
		7.07	埋土	にふい黄褐			100							
		8.01	埋土	にふい黄褐			100							
		10.05	埋土	にふい黄褐			100	4	0					10.05~119.14m ・花崗斑岩である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂~砂礫からなるとまとめ書き。

コア観察カード
(H27年8月)

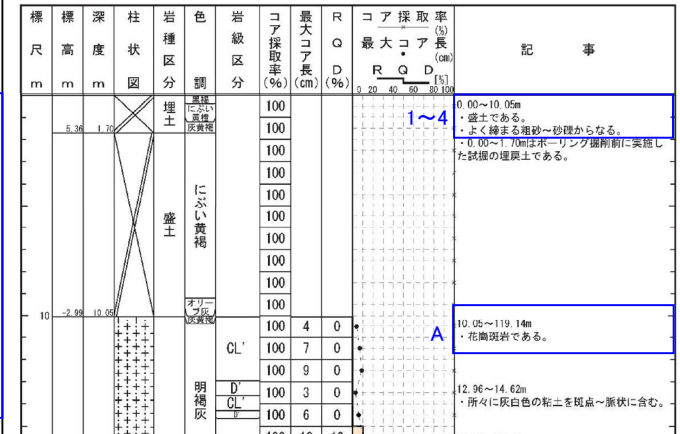
コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アブライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - -
亀裂は赤線, 角度, 紫線等

記事内容
8.01~8.37m: 砂
8.37~10.05 砂礫
9.21~9.66m 腐食した鉄棒を含むモルタル(一部にGp細骨材少量含む)
9.80mと10.03m付近モルタル含む
(着岩)



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
1~4	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。 ・当該ボーリングの土質区間は、一連が人工層からなるが、土質構成として、良く締まる粗砂～砂礫からなるまとめ書き。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界・層位位置	地層心	地層名	割れ目状態				最大コア長 (cm)	RQD	R	Q	D	D ₁₅	記事
					割れ目状態	割れ目状態	割れ目状態	割れ目状態							
15	12.96														
16	13.64														
17	14.30														
18	14.62														
19	15.33														
20	18.05														
21	20.04														

記事内容
<p>12.96～14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状～幅1～3m/mの脈状に含んでいる。</p>
<p>13.64～14.30mは硬さ「C」岩片主体で20～40°の密着度の低い割れ目が同方向に1～2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位置7m/m, 右ズレ) 14.30～14.62mは上端17° 幅1～5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1～2m/mmの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。</p>
<p>14.62～20.04m: CL 20～40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。</p>

標尺	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	R	Q	D	最大コア長(cm)	記事
m	m	m				(%)	(cm)	(%)			R Q D	
15	12.96		明褐色		CL	100	4	0				10.05～119.14m ・花崗斑岩である。
16	13.64		明褐色		CL	100	7	0				12.96～14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点～脈状に含む。
17	14.30		明褐色		CL	100	9	0				15.33～15.43m ・軟質化著しい。
18	14.62		明褐色		CL	100	3	0				18.05～18.47m ・柱状化している。
19	15.33		明褐色		CL	100	10	10				20.04～20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
20	18.05		明褐色		CL	100	7	0				
21	20.04		明褐色		CL	100	8	0				
22	20.04		明褐色		CM	100	5	0				
23	20.04		明褐色		CM	100	9	0				
24	20.04		明褐色		CM	100	14	24				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30～14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名称	割れ目 性状		割れ目 長さ (cm)	割れ目 密度 (1/m)	割れ目 傾斜 (°)	割れ目 方向	最大 コア長 (cm)	RQD (%)	試料 採取 位置	試料 採取 長さ (cm)	試験 結果		備考・観察性状・詳細スケッチ等
				軟弱	硬軟									硬	硬質	
0.5	13.96		明礬灰	×	○	10	3	45	水平	10	100					12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。
0.5	14.30		明礬灰	×	○	10	3	45	水平	10	100					13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
0.5	14.62		明礬灰	×	○	10	3	45	水平	10	100					14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

記事内容
8 12.96~14.62m: D, CL 上端側と下端側はD級、中央部はCL級が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」であるが岩組織や割れ目は残留しているが全体に締った砂状化が進み、処々灰白色の粘土をφ5m/m前後の斑点状~幅1~3m/mの脈状に含んでいる。
9 13.64~14.30mは硬さ「C」岩片主体で20~40°の密着度の低い割れ目が同方向に1~2cm間隔で分布。 14.22m 43° 幅1m/m軟質黄褐色粘土をはさむ割れ目(sj) 交差する80° 幅1m/m石英脈を切っている(変位量7m/m, 右ズレ) 14.30~14.62mは上端17° 幅1~5m/m軟質赤灰色粘土。 下端50° 割れ目で囲まれ著しく軟化しているが、一部に硬さ「D」も残留。 岩組織や割れ目はわずかに残留している。 処々に幅1~2m/mの軟質灰白色粘土を脈状に含んでいる。
10 14.62~20.04m: CL 20~40° 割れ目主体で、割れ目ぞいに風化で砂状化が拡大している部分も含んでいる。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 区分	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	コア採取率 (%)					記事	
										R	Q	D	15	10		
10	12.96	10.05	明礬灰	灰白色	CL	100	4	0	0	0	0	0	0	0	0	10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
			明礬灰	灰白色	D	100	9	0	0	0	0	0	0	0	0	12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。
			明礬灰	灰白色	CL	100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	15.33~15.43m ・軟質化著しい。
			明礬灰	灰白色	CL	100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	18.05~18.47m ・柱状化している。
			明礬灰	灰白色	CL	100	7	0	0	0	0	0	0	0	0	20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
8	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであることから削除。 ・全体に砂状化が進んでいるが、砂状化部の連続性に乏しいことから削除。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達の状態については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.22mに粘土を挟在し、石英脈を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・14.30~14.62mに粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。 ・岩組織や割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂状化するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

掘削尺 (m)	深度 (m)	地層・地質	試料採取位置	試料番号	相区分				試料採取	試料保管	試料分析	試料説明
					掘削尺	深度	試料採取	試料保管				
15.96	16.49											11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
16.49	16.87											12 15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
16.87	17.00											13 15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33~15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73~15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい5~15m/m半固結状 白色シルト~粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76~16.87m φ10~20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1~2m/m程度砂状化。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事																																																																																																																		
												R	Q	D																																																																																																																			
20			+	+	明徳灰	D'	100	3	0	0	0	0	0	0	0	12.96~14.62m 所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。																																																																																																																	
																	+	+	明徳灰	GL'	100	6	0	0	0	0	0	0	0	0	15.33~15.43m 軟化著しい。																																																																																																		
																																+	+	明徳灰	GL'	100	10	10	0	0	0	0	0	0	18.05~18.47m 珪質化している。																																																																																				
																																														+	+	明徳灰	GL'	100	7	0	0	0	0	0	0	0	20.04~20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。																																																																						
																																																												+	+	明徳灰	GL'	100	8	0	0	0	0	0	0	0	0																																																								
																																																																										+	+	明徳灰	GL'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0																																										
																																																																																								+	+	明徳灰	GL'	100	9	0	0	0	0	0	0	0	0																												
																																																																																																						+	+	明徳灰	CM'	100	14	24	0	0	0	0	0	0	0														
																																																																																																																				+	+	明徳灰	CM'	100	3	0	0	0	0	0	0	0	0

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト~粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76~16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質	色	細区分				硬軟	割れ目	備考
				割れ目の形状	割れ目の長さ	風化	変質			
0.5	16.49			√	○	○	○	○	○	11
1.0	16.49			√	○	○	○	○	○	12
1.5	16.49			√	○	○	○	○	○	13
2.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
2.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
3.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
3.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
4.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
4.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
5.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
5.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
6.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
6.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
7.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
7.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
8.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
8.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
9.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
9.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
10.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
10.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
11.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
11.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
12.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
12.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
13.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
13.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
14.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
14.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
15.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
15.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
16.0	16.49			√	○	○	○	○	○	
16.5	16.49			√	○	○	○	○	○	
17.0	16.49			√	○	○	○	○	○	

記事内容
11 上端側の16.49m以浅は硬さ「D」主体、16.49m以深は硬さ「C」主体である。
12 15.33～15.43m 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟化著しい。上下端とも35°前後の割れ目である。
13 15.73～15.80m 80°割れ目ぞい薄くマンガン鉱染を受ける。 16.31m 50°割れ目ぞい幅5～15m/m半固結状 白色シルト～粘土はさむ。 16.49m 35°割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含んでいる。 16.76～16.87m φ10～20m/mの岩片状呈する。岩片間は幅1～2m/m程度砂状化。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					明徳灰	D'	100	3	0					12.96～14.62m 所々に灰白色の粘土を斑点～脈状に含む。
						GL'	100	6	0					15.33～15.43m 軟化著しい。
							100	10	10					18.05～18.47m 珪質化している。
							100	7	0					20.04～20.93m 硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
							100	8	0					
							100	5	0					
							100	9	0					
							100	14	24					
							100	3	0					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
11	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
12	・砂状化と粘土化がみられるが、いずれも直線性に乏しいことから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
13	・割れ目の傾斜、マンガン、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・16.31mにシルト～粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・16.76～16.87mで岩片状を呈し、一部で砂状を呈するが、砂状部の連続性や直線性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色調	柱状図	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
					割れ目状	割れ目傾斜	割れ目幅	割れ目厚									
23	23.91~23.49																22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53mは軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24	24.37																24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25	24.53~26.70																24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

記事内容
23 22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53mは軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

標尺	深度	柱状図	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	最大コア長 (cm)	記事
20		+	明褐色に灰い色		CN'	100	5	0	0	0	0	18.05~18.47m ・珪質化している。
						100	9	0	0	0	20.04~20.93m ・珪質であるが、密着度の低い割れ目を含む。	
						100	14	24	0	0	22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・土壌に褐色の粘土脈、下部に褐色の砂を伴う。	
						100	3	0	0	0	一部に灰白色の粘土を脈状に含む。	
						100	5	0	0	0	・破砕部である。	
						100	6	0	0	0	・左ずれセンスである。	
						100	10	10	0	0	・淡黄色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。	
						100	18	18	0	0	・26.70~26.90m ・破砕部である。	
						100	8	0	0	0	・左ずれセンスである。	
						100	5	0	0	0	・淡黄色の粘土状~灰白色の硬質粘土状を呈する。	
30		+	明褐色		CL'	100	6	0	0	0	・淡黄色粘土 : 1mm ・走向・傾斜はN10° E61° である	
						100	4	0	0	0	・傾斜は43° である。	
						100	4	0	0	0	・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は	
						100	4	0	0	0		

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	岩種	色調	柱状	割れ目状況				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
					傾斜	厚さ	分布	形状				
23	05				傾斜	厚さ	分布	形状			記事	
24	09				傾斜	厚さ	分布	形状			記事	
25	13				傾斜	厚さ	分布	形状			記事	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
23 22.91~23.49m 40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~60° 斜交する60~80° 割れ目を切ることがある。 23.45~23.71mに幅1~3m/m軟質白色粘土脈をはさむ80° 割れ目が分布。 23.71~24.53は軟化し硬さ「D」主体。 23.71~23.95m 80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染伴う。 24.06~24.22mは硬さ「C」主体。
24 24.37m 45° 厚さ2m/m石英脈
25 24.53~26.70mは硬さ「C」主体。 上位よりも割れ目がやゝ少なくなる。 24.60~24.92m 80~90° 割れ目に厚1~5m/mのマンガン鉱染で黒褐色砂をはさむ。

申請書用柱状図

標尺 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)				記事																																																																																																										
											R	Q	D	最大コア長																																																																																																											
20		+	明 礫 灰	花 崗 斑 岩	D	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	18.05~18.47m ・珪質化している。																																																																																																									
																	100	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20.04~20.93m ・珪質であるが、密着度の低い割れ目を含む。																																																																																											
																															100	14	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22.50~22.64m ・軟質化著しい。 ・土層に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。																																																																														
																																												100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26.70~26.90m ・破砕部である。																																																																	
																																																									100	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	左ずれセンスである。 ・淡黄色の粘土状~灰白色の珪質粘土状を呈する。																																																				
																																																																						100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	一部に灰白色の粘土を脈状に含む。																																							
																																																																																			100	18	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	●26.70~26.90m ・破砕部である。																										
																																																																																																100	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	左ずれセンスである。													
																																																																																																													100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	淡黄色粘土 : 1mm ・走向・傾斜はN10° E61° Wである
100	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	上部境界の傾斜は45°、下部境界の傾斜は																																																																																																												

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
23	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目を切るとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・23.45~23.71mに粘土脈を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・一部割れ目沿いで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 2.6 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層名	色調	割れ目 形状	コアの 形状	風化 質	RQD	最大 コア長	岩級区分	基盤岩コア観察カード	
											記事・破砕性状・詳細スケッチ等	記事
											26	25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
											27	26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m)
											28	●26.70~26.90m: 破砕帯(主せん断面26.70m) 26.70m: Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m以下。 26.70~26.90m: Hb 上端43° で直線的に下端54° でやゝ湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2)、厚さ16.0~18.0m/m
											29	26.90~27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。
											30	●28.12~28.14m: 破砕帯(主せん断面28.12m)
											31	28.12m: HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。
											32	28.12~28.14m: Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。

記事内容
25.00~25.81m及び25.09~25.28m 85~90° 割れ目に厚さ1~2m/mで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂はさむ。一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
26.22m 50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m)
●26.70~26.90m: 破砕帯(主せん断面26.70m) 26.70m: Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)、厚さ1m以下。 26.70~26.90m: Hb 上端43° で直線的に下端54° でやゝ湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質な礫質粘土状を呈する。下端は厚さ1~2m/mの粘土脈。 色調は灰白(2.5Y8/2~7.5YR/2)、厚さ16.0~18.0m/m
26.90~27.57m: D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: CL 硬さ「C」岩片も残留するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ぞいに薄砂や粘土をはさむことが多い。
●28.12~28.14m: 破砕帯(主せん断面28.12m)
28.12m: HC-1 43° で上下端ともに直線的に連続。φ1m/m石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR/3)、厚さ1~3m/m。
28.12~28.14m: Hj 上端43° で直線的に、下端45~55° で波打って連続。粘土化と砂状化の著しいφ3~5m/m岩片からなり、「粘土混じり、ないし粘土質岩片状」呈する。色調はにぶい黄橙(10YR/4)、厚さ1~3m/m。



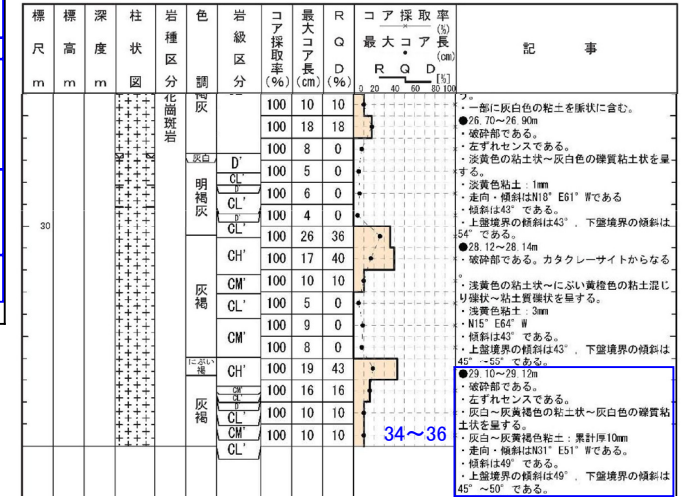
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
26	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。 マンガンについては、補足的なものであるため削除。 一部割れ目沿いに砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
27	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目については、系統的な変位が認められないため削除。
28, 29	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb及びHj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
30	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 26.90~27.00mで砂礫状を呈するが、劣化に系統性が認められないことから削除。 27.00~27.57mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 27.57~28.12mの一部割れ目に砂や粘土を挟在するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
31, 32	<ul style="list-style-type: none"> カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 表現の見直し(粘土混じり、ないし粘土質岩片状→粘土混じり礫状~粘土質礫状) 粘土の累計幅については、最大値を記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hj区間の幅については削除。 境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	温度 (m)	採取 位置	心層 番号	細区分				破砕度 区分	備考・破砕性状・詳細スケッチ等
				崩れ 層状 構造	崩れ 層状 構造	崩れ 層状 構造	崩れ 層状 構造		
28.14								33	28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
29.10								34	●29.10~29.12m: 破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
29.12								35	29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
30.02								36	29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。
								37	

記事内容
28.14~29.10m: CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化、 割れ目は直上位の破砕帯主せん断面と同方向に近い40°~60°で分布する。
●29.10~29.12m: 破砕帯(主せん断面29.10m) 29.10~29.11m: Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。φ1m/m石英粒をごくわずか (5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側: 灰白(10YR8/2)、中央: 灰黄褐(10YR4/2)、下端側: 灰黄褐 (10YR6/2)の縞状模様呈する。厚さ5~10m/m。
29.11~29.12m: Hb 上端50°、下端45°~50°~55°でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、 φ3~5m/m粘土化岩片を20%程度含む半固結状の礫質粘土状を呈する。色 調はオリブ色帯びた灰白色(7.5Y8/2)、厚さ7~11m/m。
29.12~30.56: CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
33	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
34~36	<ul style="list-style-type: none"> ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため、端部及び主せん断面で取得したものを除き削除。 ・下盤境界の見かけの傾斜について、55°との追記があるが、50°で問題ないと判断し反映せず。 ・主せん断面との記載については、コア観察による最新活動面を示したものであり、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・粒径、粒子の種類、含有率については、補足的なものであるため削除。 ・縞状模様については、色調で示していることから削除。 ・破砕度区分Hc-1及びHc-2からなる区間の累計幅を記載することとしているため、Hb区間の幅については削除。 ・境界の直線性、硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
37	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。